

沙里里绿	猪膽汁導方	大承氣湯	調胃承氣湯	麻仁丸	小承氣湯	白虎湯	白虎加人参湯	訂正仲景全書傷寒論註陽明全篇月錄	御纂醫示金鑑卷四
------	-------	------	-------	-----	------	-----	--------	------------------	----------

な多種与合金一先口 與琴琴完全盤卷回 丁出山上京の世間間は大田土 方正仲哥公替楊完論監陽即全緒日餘 豬苓湯 梔子葉皮湯 麻黃連軺赤小豆湯 商陳高湯 上瓜根導方 白虎勘 小承病易 口然加入參揚

御纂醫宗金鑑卷 印纂者六丘監 辨陽明病脈證并治全篇 此 太陽之表未罷兼見頭 經病也潮熱露語手足 中身熱煩渴目痛鼻乾 陽明證 明主裏內候胃中外候 仲景全書傷寒論註 邪已罷悉傅陽明但見出 陽明府病也而其候各有 者有陽明之邪 一名 四 江南東南西縣 四 痛恶 腋 示得 肌 泚 熱有打心煩 肉故有病 寒無汗之太陽證者有太 账 經病則有邪已傳陽 然汗出腹滿痛大便鞭 不惡寒反惡熱者此陽 經病府之分如 不 瓜 秘物度 口渴引 明 論 而

行名の中に「白色」ララリ 加葛根陽發之或以白虎陽清之或以柴胡白虎陽和之 所為大便難者是也其治陽明經病則以葛根湯或 隨其證而施之可也其治陽明府病雖均為可下然不無 實是也有少陽陽明謂病已到少陽法當和解而反發汗 利小便亡其津液胃中燥熱復轉屬陽明致大便結煉者 太陽之邪一傳陽明遂入胃府致大便不通者所爲胃家 鞕者所爲脾約是也有正 中乾燥太陽之邪乘胃燥而轉屬陽明致小便反數大 陽明謂太陽病或發汗或吐或下或利小便亡其津液胃 熱往來以苦而嘔目眩 耳聾之少陽證者府病則有太陽 陽陽 明開陽氣素盛或有宿食 桂枝

詹十草と運動活所而らり可也比場明病之大格也茲以

在經在府二者詳疏於篇倬讀者易為分别則臨證施治 **赔汁導之量其病而治之可也此陽明病之大略也茲以** 輕重之分故或以三承氣湯下之或麻仁先通之或蜜草

月乙高方号

1000

陽明之為病胃家實是也 註陽明經內以候胃外以候肌言陽明之為病由太陽之邪 傳於其經則為陽明病外證由太陽之邪傳人胃府則為

胃家實也

可是是自己、人的四 能方有執口陽明經也胃府也實者大便結為鞭滿而 出也雖則遲早不同而非 1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年の1920年 日數所可构也

傷寒三日陽明縣 計傷寒一日太陽一 多層与白鱼 註方有執曰傷寒三日該中風 血 陽 沈 飯象有如此者 之大脈也葢由去表傳裏邪熱 第 俱多也 明乃多氣多血之府風寒傳入邪盛於中故脈 明宗曰此正陽明之正脈也仲景謂三日陽明脈 明之浮大亦不兼少陽陽 非必以日數构也此云三 常 12 日陽明三日少陽乃內經言傳經之 日陽明縣大者謂不兼太陽 明之慰大而正見正 而大約言也鹹大者陽明 入胃而成內實之診 歷

記さればりかははいりはい

陽之虛雖見大實大滿亦當詳溶領虛或以小承氣易試 太陽之浮紫少陽之弦細或遲疾滑牆虚弱乃屬氣血陰 為陽明邪實之正城但病陽明務具此鄉方可下奪或兼

之或用蜜煎與法不得直施攻下也

本太陽初得病時發其,行先出不徹因轉屬陽明也 意陽明之病本自太陽初得病時發其行行先出而不透徹 乃為汗不如法故未盡之邪因而轉屬以則也罪在經則

為外務那人所則為胃家質也

陽明病若能食名中風不能食名中寒 日此言由發太陽汗不如法致病入胃之大意

いて 記上傷寒かに 勝明全篇

かなる 日子とて そこなは 能方有就日此以食之能否驗風寒之辨蓋陽明主水穀風 註太陽之邪傷陽明病有自中風傳來者有自傷寒傳來者 能食陽能化殼也寒不能食陰不然穀也名猶言為也中 寒是胃家處冷藥互理中湯之類今一个能食是胃氣質俱 如此者非問陽明自中而然也 寒却傷寒之互詞大意推原風寒自太陽傳來其辨驗 傳來者以寒乃陰邪不能化穀故不能食也 風乃陽邪陽能化穀故能食也不能食名中寒是自傷寒 當於食之能否辨之若能食名中風是自中風傳來者以 號日仲景云中寒與傷寒同義非 具寒器也許係真中 分 ---

問日陽明病外證云何答曰身執行自出心惡寒反惡熱也 註方有執日此以太陽中風傳人陽明之外證言 註陽明病有外證有內證湖熱自汗不大便內證也身熱汗 與 證故不與中風外證同也然得明之熱發於肌肉必然落 自出不惡寒反惡熱外證也今行自出是從中風傳來故 而熱又不似太陽之陣陣發熱可知矣 邪未入射不 作靈熟耳因名中寒實點傷寒無異 問日陽明未知其裏之何時傳來必先驗其外之何 中風之外語同而身熱不惡寒反惡熱則知為陽明外 荔形日病有太陽中風不解傳入陽明若何以辨之故 ちり 可正信果 神門明明

恶寒將自罷卽自汗出而惡熱也 問日病有得之一日不發熱而惡寒者何也答日雖得之一 不分里下一人 集方有執目此以太陽傷寒傳入陽明之外訟言 去表示盡之那欲傳陽明不能人特故惡寒必將自罷 太陽病當思寒陽明病當惡熱今陽明病有初得之一月 日常自汗出 去太陽而入 之本證也若 見訟答日太陽病有身熱汗自川而忽風者此太陽中風 不發熱而惡寒者是太陽去表之邪未盡改仍惡寒也然 八陽明矣此陽明病由太陽中風而傳入者也 而思執矣 身熱行自出竟不惡風寒而反惡熱則府已

1

程應施戶陽明惡寒終是帶表至於府病則惡熱矣表之

罷否須於此驗之

鄭重光日此辨陽 明傷寒之外盤不發熱而惡寒起自

開汗外洩也

寒心惡寒將自罷

邪過表也即自汗出邪熱鬱於肌肉

何病也祭日得之一 魏務形日太陽傷寒亦有傳入陽明者又何以辨之故設 日病有得之一日起初之時不見發熱而但見思寒者 日惡寒雖為太陽傷寒之證而惡寒

陽中風 **訂正傷寒論其門明全篇** 川發熱惡風汗自出為正病太

即養學了下於學

梅入者也可知太

将自己

即白汗

出而發熱此是陽明病由太陽傷寒而

傳始雖惡寒一口即止此為陽明病也 問日惡寒何故自罷答日陽明石中主土也萬物所歸無所復 不多是下行人的 一人 就方方就口惡寒二·山自止者熱人裏而將惡熱此以正陽 葉方方就口惡寒二·山自止者熱人裏而將惡熱此以正陽 註此釋上條陽明惡寒自能之義陽明屬胃居中土也土<u>為</u> 自止則是太陽之那已悉歸併陽明此為陽明病也 萬物所歸於邪熱歸門則無所後傳亦萬物歸土之義陽 陽明言也 明初病一川雖仍惡寒是太陽之表未罷也至二日惡寒 熟為正病也 陽傷寒則惡寒無汗為正病若傳入陽明則必以行出惡 - No.

· 一下一下是 先: 在: 人們一一里切專本人都從一個化熱等一

也 国際などで公然 自何緣 計 陰傳來之邪亦轉 而果合焉 程 其不當徒亡津液 8 中乾 所歸無所復傳 君利小便皆為 應旄日六經 得陽明病 移得陽明 燥因 有燥 轉屬 雖 ,可止位 野洲 社陽明全分間 胃實之病答曰 也 致命門中乾燥則未盡之表 去那而設治之誠實則邪 助明不更友 熟無論三陽傳來之 屬而變熱陰陽之邪皆歸胃土 分陰陽 太陽病若發汗者 而卑之者胃五藏六府皆朝常 内質大 H 大便 邪在太陽時發汗若 邪從而化 15 難者 7 利小便此 解 而愈矣 邪疾 熱 刨

イグリーン人 derena y 以攻熱為急此三承氣湯解約九及蜜煎土瓜根猪膽汁 燥之陽則以滋燥 月更 卷病脚約大便難者每因其人津液素虧或因汗下利 即求經汗下而亦入胃成質也故已經汗下者為奪血致 無動立之別解約 難即少陽陽明人 陽 施治失少所致右目質者則其人陽氣素盛門有宿食 因而轉屬陽明為胃實之病者有三日不更太即太陽 明 聯約是也日內實即正陽陽明日家實是也日大便 ないからう -便難是也三者難均為可下之證然不 為主未經汗下者為熱盛致燥之陽明 自 輕於大便難人便難自輕於胃家實

三子とこれ 見とり 一人一一日と次世と

問曰病有太陽陽明有正陽陽明有少陽陽明何謂也答曰太 川上をあるででんという 註方有執曰古人大便必更必不更衣言不大便也 復有燥實燥不實之辨所以有不更衣之陽明病有內質 程應施日轉屬層次不止,有表能不能之分而表能入家 下法有禁有宜受氣有裏具果然所以下法有應大應小 之陽明病有大便難之陽明病也其中有虧表屬裏所以 有內質之證 胃中乾燥未必復成內實答云方其太陽初病時下之不 汪琥曰或問太陽病若下矣則胃中之物已去縱亡津液 當徒亡津液胃中之物去之不盡邪傳陽明而成燥糞故 ころ 日子記信楽論計場明を希

陽陽明者脾約是也正陽陽明者胃家實是也少陽陽明者發 在多面中可在衛門人先 行利小便已目中燥煩實大便難是也 註程知曰言三陽皆有入胃府之於也陽明為水穀之海中 註陽明可下之談不止於胃家質也其綱有三故又設問答 液少陽之邪復乘胃燥轉屬陽明謂之少陽陽明大便遊 太陽之邪已到少陽法當和解而反發汗利小便傷其津 熱結謂之正陽陽明不大便內質滿痛名門家實者是也 以明之也太陽之邪乘胃燥熱傅入陽明謂之太陽陽明 而難出名大便難者是也 不更衣無所苦名脾約者是也太陽之邪乘問宿食與燥

11、「田町人は次一大出力上出力」とは一大地口が次下

からなど といい 大山 記憶器論語明を痛 陽明病鹹浮而緊者必潮熱發作有時但浮者必盜汗出 府者謂之太陽陽明即經所謂太陽病若吐若下若發汗 即經所謂發熱汗出胃中燥鞕臟語行是也乃胃中邪智 氣微下以和之邪自陽明經傳入門府者謂之正陽陽明 後微煩小便数大便因鞕者是也由脾之飲約故用小承 土為萬物所歸故三陽經皆能入其府邪自太陽傅入胃 外證未除則陽明正治之法又不可用矣 也係津液內竭故用麻仁九潤下以和其津液也若三陽 故用大承氣以攻下之邪自少陽轉属目府者謂之少陽 陽明即經所謂少陽不可發汗發汗則藏語此屬胃者是

石を変したとうなる 住沈明宗日此陽明證而見上、陽鄉也縣戶而緊太陽表寒 註陽明病在 罷必自汗山當從太陽陽明中風治之宜桂桂加葛根湯 時之證仍當從太陽陽明傷寒治之宜麻黃加為根湯汗 之若見潮熱發作有時之路而歐但浮不緊是陽明病而 見太陽中風脈也則知是從中風傳來太陽中風之邪未 來太陽傷寒之邪未罷必無汗故雖見陽明潮熱發作有 有時者是陽明病而見太陽傷寒脈也則知是從傷寒傳 自汗是陽 大學和印印史 經飯當浮長入府飯當質大今飯浮而緊潮熱 明證益汗是少陽證益汗當是自汗文義始屬 の大田田 TO STATE

はは、一つけってかして

LIS EI

1

陽明病脈遲汗出多微惡 註陽明內脈當數大个縣遲汗出多設不發熱惡寒是太陽 註集 湯 之理于必是傳寫之遺 惡寒乃是表陽處桂 汗出多之下當有發熱二字若無此二字蘇遲汗出多微 未罷之哪潮熱發作 風傷衛脈故必汗出 那已解矣今發熱 微惡寒是表循未盡解也故室桂枝 知日此言中風傳陽明表 肌以發共汗使 寒者表未解也可發汗空桂枝 语其論計陽明全篇 业 初八陽明之表邪仍還表而出 枝附子易證也豈有用桂枝湯發汗 有時則陽明裏證已具、但浮者 邪未解仍应用桂枝湯以解 L 也

陽明病 イイクラリアング 並陽里河蘇應浮大盜應汗出今蘇但浮表病蘇 聯美寶證也是太陽之邪未悉入陽明循 汪號 仲景法還乞用桂枝加萬根湯為是 老陽明熱而 太陽傷寒治之發汗則愈安麻黃湯 一点緩嫌之所變傳 峽珍無汗面略者發 太陽中風 日此太陽病初 东 學人人 例治之又日雖從太陽 ME **勝頭** 傳陽明 也 至陽明邪將入裏故 汗則愈安麻黃湯 微惡寒者在表風邪 Æ 中有風 例 那也 治但 脈 幾 進 在表也當 既云陽明新 未盡也故 **嵊遅者太陽** 也無汗而

川道文二十二川北上北京

一形上山下七五岁川仍然不此

其汗出多者亦為太過太 陽縣微而汗出少者為自 生張路,白陽明樂衛難 表出不至歸於胃而 已甚則緊去而浮在此皆邪氣在經之後若入 魏荔彤日此太陽陽 目痛鼻乾身熱不得 號曰無汗而喘但 數浮者必實矣設 明自汗已多則緩 之是可亞 過者爲陽絕於裏亡津液大便因 明之證 和也什出多者為太過陽縣實因 浮不繁何以定其為陽明病必其 眠 不數不實非問質也必不勝攻下矣 去而遲在寒邪之脈傳至陽川發熱 無所復傳也 辨辨之全藉於縣證 故云陽明病 入陽明未深故令其邪仍 也 風 邪之郷南軍

そそうあずってくって

也

此承上條互詳其縣 以 出其證也感陽微謂縣浮無力 而

微也陽峽質謂峽

浮

有力而盛也凡中風傷寒鹹陽

微

則

亦為太過汗出太過 為太過不解也陽峽實 熱微微熱蒸表作汗 則陽 若汗出少者為自和欲解汗出 川熟盛 極 於裏丛津液大便 因熱盛而發其汗出多 因 鞭而成

內官之證於勢不得不用下法故欲發其汗者

慮及此也

%具日陽微者中風 緊實也陽絕即人群 液之瓦 之蘇陽微緩也陽實者傷寒之蘇陽 鮮仲景每於亡津液者悉

陽明病法多汗反無汗其身如蟲行皮中狀者此以人虚故也 するなることない いいは 丁丁丁丁丁田東南正明明全日 註陽明病法當汗多反無汗其身如蟲行皮中狀者以其人 かれ安文見通力地 那人事上校少二正社中原見年野八十二年一次首奉之名 明多有熟越之證開胃中津液隨然而盐越於外汗出不 將自解汗出多則陰津易致齒絕也 明目經之行即省顧應陰津以胃中藏泮液改也所以陽 陽膀胱經之汗即當顧慮陽氣以膀胱主氣化故也發陽 無陽玩本文陽絕於裏亡津液大便因輕甚明伤寒發太 也宜高根楊小劑微汗和其肌表自可愈也 門氣入處邪聽於太陽之表陽叫肌脹不能宜發作汗 止耳然則陽明病不論中風傷寒感微感實汗出少而邪

聚则愈 熱人不然發行就然开出而解者此水不勝穀氣與汗其併脈 陽明病初欲食小便反不利大便自調其、人們衛疼發動如有 在文品工人人 自 陽明病初飲食知其從中風熱邪傳來也陽明受邪當小 禁 汪 號 日 按 此 條 論 仲 景 無 治 弘 常 器 之 云 可 用 柱 枝 加 黃 魏 新形日陽 明病法應多汗今反無汗但見身如蟲行皮 便數大便轉合小便反不利大便自調知津未傷而目自 經藥今係陽明無汗證仍宜用葛根湯主之 者湯郭雍云宜用桂枝麻黃各半湯不知上一湯皆太陽 中狀者此邪熟欲出表作汗而正氣泉弱不能達之也

ハーハガリ

ははよりとしていたのかります。大きのは、大いかではら

11 すると四ついたと野血 ペイリ 丁丁電火流は陽明全角 傷寒發熱無汗嘔不能食而反汗出減減然者是轉屬陽明也 言傷寒發熱無汗嘔不能食為太陽之邪欲傳也若無汗氣 其人骨節疼為為如有熱狀是太陽之表未除也在忽也 長陽化熱水不勝熟釀汗其供而出所以發狂作解也凡 見之脈也 明所受之邪自淺津未傷而門自和仍當退表作解也然 忽然發在減然汗出而解者蓋以太陽傳來之邪本輕陽 將汗解感以先浮今言鹹緊則愈者亦邪還於表欲解應 必待發在前解者此胃中水氣不勝利欲食之穀氣穀氣 和不成表質也既不放實則在經之邪本輕可自愈也若

太陽陽明之表尚在汗之可也今反汗出減減然者是邪

已轉屬陽明之府可下不可汗也

註成無已日傷寒發熱無汗嘔不能食者太陽受病也若反

汗出微微然者是太陽之邪轉屬陽明也故經曰陽明族

壮、多.

方有執日哪不能食熟入胃也反汗出者肌肉者熱膚腠

反開也

能已是轉屬陽明也濈減連綿之意印俗云汗一身不下 程應施日太陽本證現在而反汗出減減然者雖表證未

又一岁是也

傷寒蠟污發熱無汗其表不解不可與白虎楊渴欲似水無表 證者白虎加人參湯主之

註傷寒之邪傳入陽**明**飯浮發熱無汗其表不解者雖有燥

揭乃大吉龍湯證不可與白虎湯即有陽明涡欲飲水熟

證應與白虎者亦必審其無太陽表證好可與也加人參

者以其銀浮不滑非有餘也且欲於大解熱中逃生其律

液也

註鄭重光日此中明用白虎湯之法以白虎但能解熱而不 解表若稍帶外感有無汗惡寒身痛 頭疼之表於慎不可

用也

インできたアノン大はいくろうし 크

白虎加人參湯方

於白虎湯方內加人參三兩餘依白虎湯方

傷寒鹹洋清此以表有熱裏有寒白虎楊主之 被王三陽云經文寒字當那字解亦熟也其說其是若是**逐**

字才戶虎勝然矣 此言傷寒太陽證罷邪傳陽明表裏俱熱而未成門實之

病也歐門滑者浮為表有熱之歐陽明表有熱常發熱汗 出消為東有熱之歐陽明裏有熱管風揚引飲放日養有

裏俱熱之樂故主之也不加人發者以其未經汗之下方 熱果有熱也此為陽明表果但熱之證白境乃解陽明義

文 主文は、北いでし、地かりに別りです

虚故也

生 程如日滑則裏熱云浮滑則表 裏俱熱矣大熱之氣付手

名之又曰厥陰條中有傷寒鹹滑而厥者裏有熱也白虎 原而解猶之暑關之合得金風而爽故清原之劑以白虎

湯主之可證此條之非裏有寒矣

魏荔形曰此裏尚為經絡之裏非戒府之裏亦如指為表 樂為裏非指藏府而言也

即当然当二八七日出一八八日前正係美論註陽明全篇 知母六雨 右四味以水一斗煮米熟湯成去滓温服一升日三服 觔 甘草二两 粳米六合

在なる西すたり人工企 寒能沉內辛能走外此味兩層內外之能故以為君知 若潤若以寫人潤以滋燥故川為田甘草粳米調和於中 也煮湯入目輸脾歸肺水精四布大煩大涡可除矣 官且能土中寫火稼務作甘然劑得之緩其寒苦劑得之 為西方金神取以名湯秋全得令而炎暑自解方中有 平其吉使二味為佐庶大寒大苦之品無傷損脾胃之虚 非苦寒之味所宜也石膏辛寒辛能解肌熱寒能勝胃 故兼浮也蓋陽明屬胃外主肌 柯琴曰陽明邪從熱化故不惡 汗出熱燥胃中故渴欲飲水邪盛而質故鹹滑然猶 一年 寒而惡熱熱素外越故熱 肉雖内外大熱而未實終

1 11 1

補承制石膏知母之寒瀉火而土不傷乃採萬全之術者

也

者宜下之城段處者宜發开下之與大承氣湯發汗宜桂枝湯 病人煩熱汗出則解又如**瘧狀**日脯所發熱者屬陽明也 鹹實 註病人謂病太陽經中風傷寒之人也太陽病煩熱汗

歸陽明即抑或尚兼太陽也故又當以鹹辨之指鹹實者 乃申酉陽明王時故日屬陽明也證雖如此皆審其果盡

應解矣今又寒熱如瘧狀每至日期所即發剂熱日肺

川方でるらてくをいっているのではの大きに帰り全角 邪已入裏則汗出潮熱為陽明下證宜與大承氣湯下之

氣湯和之愈 太陽病若吐若下若發汗後微順小便數大便因轉者與小承 在多年三人名 大 註太陽病若吐者下 若發汗後不解入裏微煩者乃梔子豉 **集程知日病人得汗後煩熱解太陽之邪將盡未盡其人復** 傷盜也今小便數大便因輕是津液下等也皆與小承氣 是陽明兼太陽便宜汗而不宜下也 也宜與桂枝湯汗 恐未離太陽故必重辨其蘇縣實者可下若脈浮虛者仍 若鹹浮虛者邪尚 如熊狀日晡時發熱則邪入陽明審矣然雖已入陽明尚 在表則寒熱如瘧仍屬太陽當汗之證 3

11日東山上川前「人前大り」は大大日

小承氣湯方 大黃四兩 喻昌曰微順小便數大便因轉皆是 胃避實非大實也以小承氣湯取其和也非大攻也 湯和之以其結熱 者比然煩旣微而小便數當由冒家失潤燥氣客之使然 程應能曰吐下汗後而見煩證微之於大便轉固非虛煩 小承氣湯和之 已上三、味以水四 未起人裏未深也 升煮取一升二合去浑分温二服 兩去 根實着炙大 那漸入裏之機故

湯當更衣不兩者 盡飲之若更衣者勿服之 訂正信寒論註陽明全篇

趺陽鹹浮而濇浮則胃 其脾爲約麻仁凡主之 不会里三人名出 其程知日言 胃酸浮 牆不可大攻宜用麻仁九澗法也跌 津少而小便數牌主為門行其津被者也目陽强則等 胃藥也在足跗上 以除仁光主之養被潤燥清熱通倒其不敢恣行承氣者 約者謂與為邓所 便聚陰陽 趺陽日經輸也趺 相傳 則 **氣强濇則小便數浮濇相搏大便則鞕** 動緣應手浮則陽熱盛而胃强清則 約束不能為問行其津液故名脾約 就盛而液湖矣故大便則轉也其名為 陽鹹浮而濟陽浮則問氣強陰滴 則 也 13 陰 陽

即分本を質ってないか近人大り打正傷寒論註陽明全篇 床仁九方 當下而當週之 矣所以然者 程應施曰麻一仁光潤燥通幽傷寒不可必行大水氣可知 也推之少陽陽明其不可以正陽陽明目家實之法治 弱不能為具 更可知矣 陽遲故脈浮脾家之津液少為陰弱故脈濇用麻仁丸者 汪號曰以胃强脾弱為脾約作解蓋以胃中之邪熱盛為 以為胃中之陽而扶脾之陰也 一行其神 液放約其食物如一二彈丸也此不 一以其為太陽陽明非正陽陽明月家質者比

-

傷寒吐後腹脹滿者與調胃承氣湯 在全里一三五金 註傷寒吐後胸不脹滿而腹脹滿者是表邪已盡胃中壅熱 解集 疏之 麻仁二月 之滯芍藥飲液以輔潤大其推陳以致新脾雖為約此 方有執日麻子杏仁能潤乾燥之堅枳實厚朴能導固結 右六味蜜合丸如桐子大飲服十九日三服漸加以和為 度 故也宜與調胃承氣湯下其熱而和之以無鞕痛故 去一皮別 芍藥 厚朴 宇觔 去一皮制 枳實半觔 杏仁 太别作胎 尖

大小 承氣也

註程知日言吐後腹脹滿宜調胃也熱在上焦川吐吐後**腹**

宜用急下之法但與調胃承氣和其胃熱可耳內經云諸 脹滿則邪不在胸其為裏實可知然脹滿而不輕痛

脹腹大皆屬於熱也

程應能日吐傷津液燥氣不能下達遂成土鬱是以腹 用調目承氣 一奪其鬱可耳

調胃永氣湯方

配竹川、いい丁二品、像註陽明全篇

芒消半升

右三味以水三升煮取一升去溶內芒消更煮兩沸少小

不多因此一名金 卷口

温服之

解方名調昌承氣者有調和承順胃氣之義非若大小承氣

專攻下也經曰熱淫於內治以誠寒火淫於內治以苦寒

備矣恐其速下故佐甘草之緩又恐其過下故少少温服 程大黃之苦寒臣芒消之鹹寒二

味並與玫桃瀉火之力

之其意在不峻而和也

陽明病不吐不下心煩者可與調胃承氣湯

古 陽 明 病謂已 傳 陽 明 不 吐 不 下 心 順 者 清 , 經 性 下 而 心

順追其為熱盛實順可知故與調目承氣湯為熱而順

三川川がリ人

除业

其成無已日吐後心煩 明病不吐不下心煩 則是胃有懲熱也與誤門承氣 謂之內煩下後心煩謂之虛煩

其鬱熱

熱熾故可與調胃承氣湯 喻昌曰胃氣及津液 既不由吐下而傷則心煩明係

陽明發熱汗多者急下之宜大承氣湯 註陽明病不大便發熱汗多不止者雖無内實亦情急下之 因陽氣大蒸於內恐致陰液暴亡於外故以全津被

急務也宜大承氣 湯 下之

集

喻昌曰汗多則津 デージが 外滲加以發熱則津液盡隨 傷無論註陽明全篇

今不不多見下ろうな 大田 大田

蒸騰達於外更無他 法以止其汗惟有急下一法引熱勢

從大腸而出底津液不致盡越於外耳

程應施日此等之下皆為效陰而設不在奪實奪實之下

可緩救陰之下不可緩

沈明宗日陽明裏實以溯熱微汗為正兹見發熱汗多乃

裏热燉盛之極蒸騰 故洋液不可故宜大水氣粉急下也 胃中津液盡越於外非亟奪其邪以

大米氣湯方

右四味以水一斗先煮二物取五升去滓內大黃更 人 黄 四 两 厚朴去牛 皮ി多 松質五枚 芒硝三合 可を変す。いた好地 解諸積熱結於裏而成滿宮樂質者均以大水気湯下之也 解柯琴日前病皆因於氣穢物之不去由於氣之不順也故 滿者腹脇滿急順脹故用厚朴以消氣壅垢者心下原塞 条四形之輕重四藥之多少<u>適其</u>宜好可與也若州重劑 潤燥軟堅實者腹痛大便不通故用大黃攻積為熱然必 服 便堅故用权質以破氣結燥者腸中燥尿乾結故川芒消 攻積之劑必用氣分之藥因以承氣名湯方分大小有一 輕則羽氣不服邪輕劑更則正氣轉傷不可不慎也 一升去岸內芒硝更上微火一两洲分温刊版将下於勾 一次一切一訂正 傷寒論註賜明全篇

なるななりいりた山 芒消之鹹寒而以酒制之若小承氣不用芒消則亦 義焉厚朴倍大黃是氣藥為君名大承氣大黃倍厚朴是 程知曰調胃承氣大黃川酒浸大承氣大黃用酒洗竹為 內大黃西煮取二升內芒消何故蓋生者氣飲而先行熟 者氣純而和緩仲景欲使芒消先化燥屎大黃繼通 而後似朴除其痞滿若小承氣以三味同煎不分次第同 氣藥為臣名小承氣味多性猛制大其服欲令大瀉下 因名曰大味寡性緩制小其服欲緩和門氣也因名曰 且煎法更有妙義大承氣用水一斗煮料机 一大黃而煎法不同此可見仲景微和之意也 金、 12 取五升夫洋 下也

酒浸洗矣

陽明病下之心中懊機而煩胃中有燥屎者可改腹微滿初頭

後必應不可攻之若有燥屎者宜大水氣湯

註陽明病下之後心中興體而煩者若腹大滿不大便小便

數知胃中水盡之燥屎復轉也乃可攻之若腹微滿不可 攻也誤攻必變脹滿不能食飲水則贼等逆矣若果有燥

风宜下者以大水氣湯下之

註方有執口可攻以上以轉失氣言機慢慢慢偏恨之意蓋 藥力不足以勝病娛鞕欲行而不能放口可攻言皆更服

印金だらいかかいだり記録を結場明金為 湯以促之也腹微滿以下以不轉失氣言頭種後連集熱

得病二三日蘇弱無太陽柴胡滋煩躁心下鞕至四五日雖能 食以小永氣湯少少與微和之令小安至六日與水氣湯 不会下了合人 攻又回便疑與燥屎不同便鞭者大便實滿而輕燥屎者 虚煩也皆與梔子或湯若門有燥屎則非虛煩故可改腹 程態能日末句乃申可攻句以決治法 不甚滿則無必攻之法有燥屎則非先鞭後憑者地故可 門中宿食因胃熱而結為燥光之尿也故便鞕猶有用小 輕也放口不可攻之一言肯止湯勿服也 承氣着若燥屎則無不用芒消之臟寒也 程知曰言有燥屎即可大攻下也下後心中懊憹而煩者

しくといれているいいか

成轉攻之必塘須小便利聚定轉乃可攻之宜大承氣湯 若不大便六七日小便少者雖不能食但初頭鞭後必濟未定 集方有執口太陽不言樂以有桂枝麻黄之不同也少陽言 註得病二三日無太陽少陽證煩躁心下輕至四五日不大 令其小安次日仍不大便繼與小承氣湯促之者六七日 胃和能食不可輕下祗可與小承氣湯少少與面微和之 便若鹹大屬正陽陽明胃實之證也下之無疑今縣朝雖 **顿乃可攻之宜大承 氣湯** 未定鞭如大攻之初見鞭復必溏也須有小便利知屎定 竟不大便而小便少者的不能食亦属胃中尚未乾燥屎

名金百万石名·大V

薬以再主柴胡也凡以此為文者皆瓦發也以無太少二 經濟放知此屬陽明以蘇弱故宜微和至六日以下乃歷

似可攻不可攻之節度也

程應施口能食以結在腸間而胃火自盛也先以小承氣

湯少少與之和胃中之火命少安後以前藥增至一升去 馬中之結既用小承氣矣而又減去分數接續投之以鹹

弱之胃其禀素虚而為日又未久也

張聯曰此段之能食不能食全與辨風寒强弱無涉言能 食者不可以為胃强而輕下不能食者不可以為胃中有

しているというにしているというできるという

與承氣湯若腹大滿不通 魏者此外依解可攻夷也手足被然汗出者此大便已被也大 永氣湯主之若汗多微**發** 洲、「 陽明病脈遲雖汗出不凝 川では交易でいるが加へいいりには最後端は勝明全篇 莊陽明病脈遲雖汗山不惡寒外證欲解而蘇不質尚未可 せるド 滿湖然然聚於中也手足被然汗出大便已凝然結於下 也所為外邪已解內質已成始可改之主以大承氣為可 及也若其人身直然因於體也知氣而喘然差於上也腹 汗山微發熱惡寒者則外猶未解也其熱不潮水 執惡寒者外未解也其然不測未 寒省以身必重短氣腹滿面喘有消 者可與小承氣湯微和月氣勿令大 匡

なるというなないえり 作 世力有於日間熱傷明王於中西戌故熱作於此時如**別之** 氣度而而似屬可攻然必有測熱者為外路已解裏路 林湖 一 此何辨極進 内結之或宜人水氣攻之或但可以 燥門和然為騰達於四肢故口大便已輕也 家族若汗山雖多稍見於熱愿寒·則表尚在也其熱不明 小水流微和之也陽明病脈遊器兼汗出不惡寒身重短 有信息子是微然而汗出者脾主四肢而胃為之合胃中 孤宜與小水氣湯微和胃氣勿令大泄下蓋以脈進故也 **猶未實也不可與承氣湯即有要急腹大滿不通等證亦** 已且手足微然汗出者為大便已陳主以大承氣湯政之

The state of the

1 1

111111

陽明病潮熱大便微輕者可與大承氣湯不鞕者不可與之若 其後發熱者必大便復襲 而少也以小承氣湯和之不轉失氣 後必擔不可攻之攻之必脹滿不能食也欲飲水者與水則吸 轉失氣者此有燥燥也乃可改之若不轉失氣者此们初頭輕 不大便六七日恐有燥屎欲知之法少與小承氣粉湯入腹中 為極不可攻也 註陽明病湖熱大便微鞕者可與大承氣湯不鞕者不可與 便非必下之脈雖內結亦豈大承氣近宜哉 不通亦祗可與小承氣被和勿令大泄下此何以故脈延 汗亦非手足識然之汗安可與承氣以攻之乎即次人滿 といり 打正 最美端註陽明企篇 -

有人多い方面ないない 焦力有執曰此以削熱,轉失氣次第而詳言之以次當下之 必是豪東虛上遊脹滿不能食也欲依水者得水則處亦 氣湯和之可也放凡服承氣湯不轉失氣者順不可攻也 職家此但初頭與後 必斯是尚未成輕也不可改之改之 此蓋仲景戒人不可輕下之意 不追必是大便再頓但已經下後所轉者無多祗以小系 古屋朱之氣上並不能化水而下輸也若其後所發樹熱 湯湯入腹中時失穢氣則為有燥屎乃可攻之若不轉失 之也若不人便大七日恐有燥灰欲知之法少與小承氣 候也轉失氣反尾自也脹滿聚寒之過也處亦寒傷胃也

・インドン会にいい

喻昌曰若腹中氣仍不轉則不但用大承氣大差卽小承 復襲而少者軍下故也未向重致叮岭之意

氣亦差矣

與日乃可攻之不可攻之日少與小承氣日以小承氣 程知曰上條曰外欲解可攻裏曰外未解未可與承氣曰 可與小承氣微和胃氣勿令大泄下此條日可與目不可

之傾不可改多少商量慎重之意故惟手足泯然行出大 便操鞭者始主之以大承氣若小永氣循是微和胃氣之

法也

在院日轉失氣則知其人大便已輕 脱胃中燃熱之

易明為嚴語發謝然職滑而疾者小水氣湯主之因與水氣湯 又不大便蘇区微酒若裏虚也為難治不可更與承氣湯也 在全家屋にからかれてない 力展下海失氣者更服一升若不轉失氣者勿更與之明日 之行先就小承氣湯一升試之若腹中轉失穢氣則知陽 微然之汗川與小便數大便難燥實等證則不可縣然改 中原展已襲以藥少未能處下所轉下者但屎之氣耳可 更规则 孔未在於學此但初頭颠後必將也 1. 然不外官時職而下不轉失氣則腸胃中雖有熱面疹 一升促之自可下也看不轉失氣則勿更與服候則

e military to the second

1

一一一八八三月八五日

潮熱不愿寒獨語如見鬼狀若劇者發則不識人術衣換林 傷寒若吐若下後不解不大便五六日上至十餘日日晡所發 禁方有執日計以候食故為大便鞭之診疾者屬果熱也做 集方有執日計以候食故為大便鞭之診疾者屬果熱也做 是裏虛無氣不能承送故為難治所以不可更與承氣湯 者陽氣不充無以運行潘者陰血不足無以潤送故日陽 目仍不大便診其歐仍滑疾則更脫之今鹹反見彼 微不可下無血不可下此之謂也 以小承氣影下之下之而脈反微渦證變裏虛故為難治 張路口此條鹹滑而疾有嚴語潮熱而無較滿實證威宜

行祭所見る信誉をい 而不安微喘直視鹹应者生溫者死微者但發熱臟語者大承 **乳房主之若一服利則止後服** 並傷寒若吐若下後津液已亡而表不解邪因入裏不大便 校遊嗣武、日活人書云弦者陽也清若陰也陽斯見陽城者 宣行必生之理惟滑脈為陽始有生理滑者通濟者塞凡 之蘇微為者東極為難治益見其談 物選皆以通為生塞為死玩上條歐滑而疾者小於氣主 生在什只數法中或酒屬陰不屬陽得無疑乎今觀本文 内鹹这千生之弦字當是滑字若是弦字弦為陰負之飯 五六日上至十餘日仍不大便日晡所發潮熱不惡寒者

たれて 一つ こうしん 一日

引きべんないいといいで、大いり可求ない論は明明全在 按循衣摸牀危惡之候也一以陰氣未竭為可治如太陽中 湖熱能語不大便之證而無前神昏等尉者宜以大水氣 泉者則不識人循衣 模狀驚傷不安殺喝 直視見 湯下之若一服利卽止後服蓋恐其過也 者為實港下則生潘者為虛難下則死若病勢微者但 亢陰微孤陽無依神明擾亂之象旨此之際惟診其鹹滑 風火劫變並捻衣模 存险液自可愈也若 因循失下以致獨語如見鬼狀病勢 陽熱之極為可攻如陽明裏熱成資循衣漠牀飯滑者生 此乃表用悉是妄熱漸深也仍宜大承氣湯湯盡餘邪以 **琳小便利者生不利者死是也一**以 一切場

在美国人人会 大日 註粉目曰此條暴譜語之勢重者為言而勢重之中復分二 之不是也劉守真新以承氣治熱病法雖祖於仲景而雜 等劇者主死機者主生故以大承氣渴下之 之愈老不少不可概謂陽極陰竭也 也以獨參湯效之汗多者以參者湯厥冷者以然附湯治 治者死是也大抵此**節多生於**开吐下後陽氣大虛精神 程知日東全部治循不模狀好以補益得愈亦因其餘證 失守經回四肢者諸陽之本也陽虚故四肢發亂失所倚 上脫級端者邪實於內面叉不能大喘也不能人 證其未能如此詳悉故開後人國莽之端又目暗面氣欲

こうことは以上、上村とは成又は中心不出の下午

陽明病本自汗出醫臭重發汗病已差的微順不了了者此大 則喘直視則邪干臟矣故其生死之機須於鹹俠決之 氣故不識人循衣摸來者陽熱偏勝而與動於手也恨面 潮熱也獨語者卽講語也病人自言為誰獨語如見鬼狀 藏府不通故脈清者死也 **** 欲絕也內經所謂三陰三陽五藏六府皆受病柴衛不行 乃陽明府實而妄見妄聞射者甚也成註云熱其皆目正 不安者自然小胸心神為之不常也又自然甚可無上道 汪號日日酯所發潮燕者府實燥甚故當其經氣王時發 床心欲絕也數傷不安肝欲絕也微喘肺欲絕也直見習

便數少以津液當還入胃中故知不久必大便也 **幾行若本小便日三四行今日再行故知大便不久出今為小** 便必輕故也以亡津液胃中乾燥故令大便輕當問其小便日 かんないとうとなったり 以重汗亡津胃中乾燥故大便轉本無宿食也則當問其 陽明病本應自汗山醫誤以為風邪更重發汗病已差向 自世不須藥也 小便日幾行若本一日三四行今日祇再行可知大便不 微煙不了了者此大便必輕故也然無或滿或痛之苦者 八則出蓋小便數少則津液當還目中故知不久必大便

集方行執曰水穀入門其精者為津液粗者成精浑水精深

しく され はない

陽明病自汗出若發汗小便自利者此為津液的竭難鞕不可 皆可寫導 攻之當領自欲大便宜靈॥導而通之若上瓜根及大豬胆汁 意此承上條詳其義以明其治也陽明病自汗出或發汗人 被塞此塞則被通小便出少則建液還停門中必大便高 乾燥結鞕而難出也然一便者水穀分行之道路此通 汗與小便過多者皆能奪乎津液所以植海之為人便者 田陽門之外清者為非液濁者外而為汗下面為小復 便自利者此為洋液內內雖大便輕而無滿痛之苦不可 こう いうに傷寒 純は陽明全篇 脚毛

不不多事! 人工人会 一人人 生成然已 日往液内竭勝 目此 燥大便 因聽此并結熟故不 之時則用審照問竅滋燥草而利之或土瓜根宜氣通機 程應先日小便自利者準液未遊入目中津液內竭面輕 張路二凡係多汗傷津及屬經汗下不解或尺中歐遲弱 或務院汁清熱門燥皆可為引導法澤而用之可也 法責問其賜勝門則水流就然津液自歸還於門故不 故自然大便但苦不能出耳須有此光景時方可從於草 攻之當待津液還胃自欲大便操展已至直腸難出肛門 元氣素加之人當攻而不可攻者並宜導法 可及江及問藥外治而導引之

大便通而小便亦從的轉矣

密前洋方

密七合一味內銅器中微火煎之稍凝似的狀機之勿今焦

著欲可九併手於作挺子合頭就大如指長二丁首常 時 急作冷則硬以内裝道中以手急抱欲大便時乃去之

内臺方用蜜五合煎凝時加皂角末五錢蘸捻作捉以

%胎 十方

大豬幣 月行食思的主效 校為十和法酷少許以灌穀道內如一食項當大

では、一大は一大の教師・場明を高



傷寒六七日目中不了了晴不 名を見るなのでは、 此為實也無下之宜大承氣 土瓜根方 内臺方不用 中以手將騰捻之其升 上瓜根不能好化 **吹**入川門內此與上務 土瓜川俗名赤電也时後方治大便不通採根揚汁 如挺內人發道中與矣盡密挺入從道能炸化 少陰病得之二三日日陳明化為下之宜大永氣湯 **酷以小竹管挿入贈口**紹 如此 腾汗 自入內此方用之甚便 挺 游 川之恐失仲景製方之義 **乔**11 方同義內臺方用土 無表東路大便難身微熱者 頭用油 而 瓜根 内 衞 例

200

1131

してはなりてりいっかい

故 也 His 淞 下 和 因 也睛 者是 量 晔 陽 之 轨 子膝 此為 勢甚 11 必 女|-誸 無陽 無 也 响 睛 質也念以大 雕 依 利 急下之是 T 水 速 為之不 路惟 爲 躁 消 制物 陽證 目自焚 炒 漪 和 者間 身 腎 境 也今 微 所 1 5 水 世 燕 竭 承 論註陽明全篇 肺 其 I नित 津 氣 也 内 傷 热 死 液 水 此姚 無滿 寒六 活動 場 也 不 開制 既 下之為 -10 能 救 目 痛 結神 能制 七 41 也 将純 到 训持 献 山村 不 [:] 昏之 陽 大 EI 故 了 2 內其 救 H 1 水 便 凤川 不 浉尨 必 難亦為 火 ilis 緩 不 觚 待 則月 熏於 恶之 腎 5 利山 梨 塘 村

イインで 津 補 竹 經 贴 峡 目 於 心下也 昌 上紫雨 於見上 越 10 水 111 阴 於外 不 Ed 也。 3 +. 少 7 义 樞 陰 开区 7 目 合 F 病 有 凌 腹 斯 於 中 足 悉 情 满 水 央 赐 I. 赐 生 津 下 赐 諾 利! 明 例 理 結 明 血於 之 之 知 法 亦 如 於 陽 笳 IE 特技 身 引 有 KI 居 新山 急 救 在. 也 於 国 7: Marie . 冰 肾 FI 香 目 咽 壺腹 睛 1113 綱 내 水 10 法 陽 於口 頸 不 水 明 慧 以 任 飲 俠 流經 為 救 帧 津 循 门 池 津 水 神 目 村 注 15 合 矣 湖 面 液 於 於 पंग 頫 FIF 水 EL 合 リブ 13054

小两 1] 有 魏 E 如 和 張 急下 此 機 低 霧 傷 荔 錫 寒六七 己光液 無 裏 1 This 而 ル 騎 實 發其持朦 不 不 無 日陽 之 所 也 T 他 陽 急 ルル 1 便 FI 冰 191 以 火 大 ドン 太 乍 燥 明 衢 抑 亢 難 便 2 赐 白 於 屎 元 極 泉 宜 鞕 F 答 L 陽 陰 應、 極 易時 VI rhij 罷 此 **明** 之 水 辨 致 承 部 陽 閆 陽 欲 睛 質應 氣 身 和 明 水 順於 村 湯 失 為 已成 所發見端倪 क्ति 有 放 熱湯 块 被 睛 使 1. 救 热 光 不 其 似 延 H 目 昌 詳 脚三 答 北上 利」 絕 1 H 闪 序順 世。 考; 2 不 冒質已 能 處機 独 陽力 以 陰 1 人級歷矣 队 盛 版 明月 水 Y 并未 Mij 秋 記 业 17.1) 弘 城不 其 循

从 註集 til 無 若 **赤**[] 加 能 滿 明病 然者 執 1103 脚 痛 欧 併 大 10 承 方 目此 陽 旣 亦 似 熱 神運 Z 可 必 也 乍 不 有 攻 姚 部 東 難 堂 此 在 小 不宜 燥 皆 也喘者 之 乍 熱 便 171 何 屎 易 自 7 分 派 妄 也 者 热 利 大 乍 動 熱 盖 熱 大 山 龚能 承 為這 乘 热 不 便 必 TE. 能 液 便 肺 语 乍 氣 以 將 的方 20 动 手. 弹矩 W. C. 队 地 欲 THE PERSON NAMED IN 2/ 川 - 1: Sichi, 拨 1 % 被 作 왢 2 哲 不 j 也 2 · 班. 便 燥 脖 广丁 不 规 加加 it:j A. 腹 愈 1000 竭 屎 聚 液 利 大 机 未 心 也 地 证的 的 便 鞭 Æ 炮 也 150 不 自 不 便 輕 能 뱕 雕 臥

逐 裏質為急安 11 復 以 小 便 利展 定 颠 始可 攻之常法

哉

宜 難 热 便 無 涯 喘 琥 燥 時 伏 證 不 方令 也 屎 而 則 利 云 曰 内 結 ル 併 前 大 此 積於下 徐便皆 出 得 便 不 便 條 国人 得 故乍 乍 坊 手引 省 發 難. 未 則 洩 胃 潤 易, 不 乍 大 **希**亞 有 也 氣 其 通 易 便 下 燥 後 攻 大 極 何 鞭 1111 條 屎 衝 坚 便 以 此 有 辨 於 結 爲 知1 燥 有 档 擾 15 燥 共 1 燥 床: 終著 Vi 涸 即 屎 有 屎 74 故時 氣 変集 腦 燥 万 於 椠 理 屎 於心 有微 Z 大 其 刊川 不 則队 常 腸 蒂 别 未 用i 熱 图 大 --今病 前战 領大 稍效 1 糸占 之證 故 能 熱 オイ 故 満 小

位點

디

記

不論註陽明

此 者皆是有燥 屎 之 徽 故云宜 一大承氣 湯

不大便也

不大便五六日德

臍

痛

煩

躁

發

作

有

玤

此。

有

燥

屎

故

故 Æ 炉车 大 痛 世 便 煩躁 五六日 發 繞 作 臍痛 有 時 者 档 是 是 燥灰穢 陽胃 1+1 热土 燥 灰 攻。 給 貝可 無 夫 煩 路

大永氣 場下は 燥 屎 大 便 **禾**川 自 可 愈 也

几

有

病

之人而澄

犯如如

此

则皆

攻

川木

煩

躁

放發

作

有

時

也

不

須

以小

永

氣

湯

通

躁

有執日朔 治之此示人 辨 儿 胃實之大方 也

應旄口攻

法

必

燥

深方

談政所

以

馬魚

燥

屎

下後六七日不大便煩 此承上 有宿食效也宜大承 則 未 法 六七日後 日 盡也所以然者本有行 其不大便當無差矣何大承氣 路滞濟在 煩躁發作又有時伏 之燥 可不 修 不大 與不燥 以明其治 備無持轉 一、治口望 處 便煩 赤 而 也 氣 亦。 不 作 凹 失氣之一端 湯 解腹 不 下之未盡仍當下之乃大下之後 痛 而 知 解腹 也但繞 食故 不 順 與發 滿 動亦 行满 也宜大承氣湯復 浦 湯之不 不 作 臍痛 也病人雖 扇着此 此有 有 順 躁 時 則 燥屎也所以然 可 而 者因尿氣 知腸胃乾 有燥屎 村 攻 不大 繞臍 川川 便 塘 攻 五六 動 AIK.

註程知日大下之後宜乎病解矣乃復六七日不大便煩不

解而腹滿痛此必有燥屎未盡而 然蓋宿食因熱復為之

頭汙出者梔子豉湯主之 明病下之其外有熱手足溫不結胸心中懊慢機不能食但

前陽明經病下之身熱未除手足溫不結胸者是所陷之邪 淺也心中懊憹餓不能食但頭汀出者是陽邪蒸鬱於胸

膈間也故宜梔子豉湯涓其熱也 知日其外有熱者經形未解也手足溫者熱八未深也

しているとう

ナーーニート

傷寒嘔 傷其裏耳 魏荔 程應 糖 足 愷 雖溫 太陽治 仍有熱究不能 俱 機不 3 河。 形旦表 虽焦. 旄 海走 而無散 日懊 寒於胸 有陽阴證不可攻之 能 已八 即不 也 食但 邪未全八裏乃即 **慢慢目收機** 然之 用扇 至 裏又不可復 頭 於 隨 之上其恐已 汗出其陽 汗出 下藥而 全在太 不能 原引 發汗 明蒸蒸之熱為陰寒之藥所 陽 蕩 是 在表 昭 滌 者娛下成結胸而心 以爲胃實而遊下 食熱慘氣蒸故祖 然矣 惟 业 有主 者仍在表而 於是雖熱而不測 111 病仍帶表 以梔子豉 10 頭 應 汗 则 D

不多母与人鱼 人

註 寒三陽多有 叩區 證 以其風 寒之表未除胸 中 陽氣

所 便 鬱故皆不可攻下也其乾 吧 而寒熱往 來者屬少陽也 而 加配 多亦不可攻之其氣逆在上而 中亞 今雖 而惡寒發熱者屬太 派 有惡 熱不惡 為寒 寒 陽 愈欠 也

爲實

註沈明宗曰惡寒發熱之嘔屬太陽寒 但 熱不惡寒之嘔屬防 明然 唱多 则氣已上遊 热往來之呢 屬 邪 氣 いか 赐 格品

陽明 P 侵 上院或带少陽故 風 口营咽 乾腹滿微暗發 虽能 有陽明 杰 談慎不 可攻 而緊若下之 也

便難也

註集 計 裏 部 浮 易 满 程 腹 也 施 海 而 也 明調 明 也 發 風 矢口 腹 治 炳 裏 執 妹 目 計加 執 太 傷 滿 陽 該 此 3/3 恶 羽 明裏證 言陽 陽 寫 陽 寒 愈 貝リ 来 也 湖 陽 嶼 明 腹 热 以 血底 熱 也 其 明 满 明 入 四 浮 證 兼 非 病 此 液 訂正佐寒論註陽明 陽 而 而 也 胡湯 風 緊当 故 爲 喘 3 明 有 調 m 微 貝川 風 1) 太 熱 喘 赐 便 寒 太 太 以 和 裏 少 黨 2 而 桂 兼 發 陽 陽 表證 矣 财 貝寸 下之若 枝 傷 未 热 也 除 恶 太 表 然 表 力山 大夷湯 裹 也 之 寒 喘 邪 刑5 武 惟 太 乘 口 創 同 TITI 從 炳 陽 苦 X. 虚 微 之於衛 裏治 洁 復隔 小小 傷 門周 貝リ 可 未 攻 角星 寒 乾 四时 也 全 乾 故 而 少 之 入宴 过程 陽 腹 小小 陽 也 排 明 El DI.

在全人一门白 矣 陽 兼 之半 以重亡津 金 表 先 裏若 液 故 誤 1) 便 難 之 則 也 表 邪 乘 虚 內 陷 而 腹 清荫

熱身 陽明 病 衙 满 程 表發 顺於 故 證 應 沙子 有 mi 旄 沙干 無 Thi 順 目 則 緊 順 娛 此上 條 躁 赚 認 四因 心 與 燥 該 而 慢慢 然 太 口 無 苦 陽 腹 打 港 腹 滿 大 反 滿 青 讝 部 門周 龍 后 蓝 而 此 喝發 質 井 部 レス 與 風 同 加口 寒 太 溫 熱 煩 陽以 持 金成 汗 凝 住 出 必 同 風. 其 陽 桃 不 寒持 明 機 惡 惕 故 兆 寒 煩 其樂 也 有 躁 腹

浮發熱

湖

欲

飲

水

1].

便

不

利

楮

· 苓湯·

主

之

陽明

病

汗

出

in

易

主之若

洲马

然

飲

水

口

乾

舌

燥

书

自

虎

力川

人

校

湯

走

丰

加於

堰

則

胃中空

虚

客

氣

動

膈

心

中

懊

慢

舌

肝白

者

梔

沿者 不可 也 為 太 勝 表 惡熱而誤 盆 助陽邪故 與、猪苓湯 津若發熱渴欲飲 **鄭学不緊**整 以 條表裏混淆 一胎是皆 邪已衰 顺 下之則胃中空虚客氣 嚴語煩、 一發其義 浮 大山 訂正傷寒論註陽明 而緊誤 設下之 陽明 汗多 無腹腰性 衇 躁水 發其 明其治 目 燥 池 錯 喝 中 法院 1] 惯亂不 淮 汗 發熱渴 宜 燥 便 甚宜 則奪 以梔 也前條表證另多戒 **格**答湯復利其小便 利者是 习了 不可誤 子豉 熱擾動胸 液傷陰或加燒 欲 眠也或以訟之腹 虎 飲 陽則 湯 加人 水 百乾 參湯 脂 熱並 滋、 燥 幼龙

有个不在日子人 按 明 禾川 利其小 一豬杏湯 陽河南 行乃 便 少而 煩熱有 小 陽 渴 小青龍湯去牛 水涸 便 明 红 小 煩熱無汗 便利 便 病 渴 **赤**川 水以滋 順 者 利 則 2 元 熱 小 益 17 無汗 便 桂 Mi 1115 竭 以 枝 津 乾 110 夏 涠 崩 小 五 力口 稻 液 1] 然 9 花 水 陽 散 湛 白 利 便 而 蓄之小 湯蓋 虎 明 助 利 米分 加! 1] 病 洪 档 便 冯 燥 法當多 答訟 利者宜葛根 言 以 门 一時龍 汗多 寒 也 便 不 湯 也 水 11 扩 閆 湯 便 利 燥 也 151. 因 認 但 汗出; 和 恋 無 浙新 也 水 1, 順 加 5/1 熱和 便

4 1 0

方でとすこ 註集 無渴 陽 膈 喻 14 热 參 利 4 既 湯厥 皆陽 湯 矣若前 夏 110 不 陰陽 小 加花 便 故 Fil 冷 陰陰 湧以梔 白 陽 法 明 赤 2 而褐 以 亦 邪 粉 設 酒 寒熱無 順 見 4 小 邪 更 者以真 轉屬 訂正傷寒論註 與前 異常 證 川區 便 所以 豉 ,] -乾 便 條 詳 Mi 陽 利 汗 陽明 赤 武 者 舌 審 徹 同 用月 1111 燥則宜 當以 念篇 去 ifij 湯; imi 渴 Ţ m 渦 燒 欲 训月 汗出 涡 厥 小 膈 飲 釛 沙宁 者 ,] 便 熱斯 以 15 陽 供 水 和 不 稻 胡杨 自 Til. 者 邪 看 虎 ******湯少 寒 消湯 脂質 治 少少與之 [I] 加花 反惡 月 以小 熱身 解 10% 北 胎 Mil 虎 陰 胡 件 碍 則 愈 臿 湯

豨 不多百百三五到 務於去 本湯 服 立亡之患故示戒 右 加 程 加 津 而 七合 五 應 以 渴 更加 汗多復 味 皮 然 旄 不可 湯熱在 日三服 日热在 以 小 水 來 與 便 14 杏 奪之 褚 名 升 本湯 和 1 焦故 於外 先 焦故 也 則 宜以 四可 者以 四味 月裂 用 又 猪 梔 利 燕 豬 取二升 水 **苓湯以導** 150 了-315 政 便 澤 他 鴻 更介之於 陽 熱在 去 熱滋 滩 明月 心 內 滑 中 乾也其汗 焦故 先 阿可 A1 耗 則 兩各 烊 用 碎 消 自 3/2 虎 液 Vista Vista

解集 壅瘀亦 拉 性滑去 之人不但大便不可 又患亡陰亡陰者亡腎中之陰與胃家之津液也故陰 也 桂 羽皇日 利 国 以温之是煖腎以行 故 關津夜 则津夜 利 亦潤真陰 水之法 熱 仲景製豬 而 、ここけ 一日正ち寒、論に陽明全角 特用何廖 反 利 於太陽 致 而 水 佐以 不当 耗 退 利 中华 滑石以 其枯燥 一茶之滲淘 方中 水盖傷寒表虚最忌亡陽而良虚 用 動 水也於陽明少陰用猪苓者以 湯以 五岑者以太 削 阿廖哲青養陰 小 是利 、潤之是滋養無形 行 水亦思下通 陽即少陰二經水熱然 既疏濁 水而不傷陰之善劑 陽職 而滋燥滑 熱而不留其 司寒水故 倘陰虛過 ガル

一个全多体というな 出 光光

形也利水雖同寒溫適別惟明者知之

血灰 浮而 沙數 大心下反 則大 便艇汗多則 題行熱 屬 引发 統念汗ル 者攻之不令發汗 川便難 س 進 屬 尚 府省 可攻

下リス 陽 陽明 神红 陽明之裏又無權 順於 也浮屬表人 屬英个太陽 チバト 可也改養有熱智養之 **鹹浮之表** 未 角平 ring

屬

藏

間份英也屬方間

杨表也

沙湖小便

也

血灰

浮

所

無疑不須先 汗以 解 タト 也 如無 熱質而 有 脈浮之表

令攻之即小便不

利

ルス

个利

小便仍當解

小

机

澳數計多七其津液致 何 间 競夷的木實亦於 但 革更 弘上 EU 熱愈質也

妣 陽 nJ 註集 病 2 林 則 E. 心下 裏 肯堂口論言 明病 腹 熱知 血辰 瀾 遲食 也 滿 F 11.5 傳 游 今血 利 如「 難 屬表之義 斑 下 汝 何 邪人裏故舍 鞭 非 運 衣 所 用 也 以然者 已食 與腹 遲 飽 T 曰攻 衇 不 為 飽 浮 H 大 川 鲍 如 则 也 大 为里矣 節上陽明全衛 愈變 鹹 称 满 寒中寒不 汉 便 血辰 进 食 从[i 级 則 Hij 航腹湖 從 校 頭 汗反 同 为 朋护 也 熱除利 證也 丹玄 川复 與臟 能 梗 心 下之為 11. 飯裝有 化 羽 人 製所 便難 学寸 世 便 11. 駅 則許 迎 系吉 便 而言是 レス **坚**成實 則津液 則 此 此 為冒 欲 坟之小 山田 以 機欲 心 熱、 N 够 可 扩L 机 便

和多路行行在 註集 方有執 上於發向身所也 徒下其槽料 張 沙三 目並 所 明而至腹偏尤 食難用飽 湖 形容 陽明熱濕腹滿發黃 以然省飯 下行放微 日下之腹滿如故蓋腹滿已是邪陷 省 旧於下降 遲 飽則 涛 逃追 為寒不化 老 鸠 一中寒故 当はなす 院不除 頭站小 順 12 **校** 小 問 穀放食鄉 便 健運失度也清者阻 XXIII 也 而反复之耳夫 省 便 弹也 **儿雕下之腹滿暫減** 難食鬱濕族此欲作穀疽之微 ないたと 府前病也發症水殿之濕 用飽濕鬱而蒸氣遊 图型 腹滿 明隆太常 血底 於上 延 必如 頂 則胃不實 、復如放 升故 故 下陽 頭 Tris

赐 渡 必 明 大 病 洩 然後 陽 程 便 一片 應 屬 之 明 便 遲 少 中 病 初 問 旄 法 2 則 寒 顛 氣 與 地 內 FI 亦 此 調 姚 後 档 虚 熱 不 也 宋 溏 畜 中 則 寒 胃 不 可 [1] 成黄 所 微 能 使 見 寒 不 用 爐 以 食 大 然 不 惟 血派 津 和 然 能 胃 增 江 11 下 之 便 液 食 省 胃 能 便 之 腹 氣 不 用 食 以 益 15-不 满 虛 充 可 利山 胃 虚 15-便 利 下 也 法 其 便 म्ब 其 手 之 如 ス・ 但 清 虚 利 冷 足 利 可 甘 手 溉 雕 水 矣 去 逃 足 穀 乾蕷 手 然 故 此 無 爐 濮 1 腹 汗 則 念 禁 派 滿 别 出 然 榖 内 191 然 汗 放 此 氣 如 维 發 也 欲 故 溢。 非 汗 作 得 約 P 匿 H

问 也 出 此 為 The same 中 力 寒 17. 欲 作 固 瘕 何 以 知 之 以 大 便 水 初

1/11

按 便 发 溏 世 所 也 然 一者胃 中虛 水 棠 不

持 出 不 示门 化 H 與 刑。 FIT --1 食 寒冷 條 條 與 L 鲍 110 條 則 便 以 被 萬 食難 微 煩 同 烟 明 頭 不 頭 眩 飽 胶 船 不 同 陽 下 同 7-彼 輸 在 th 能 欲 脖 朋光 F 作 腐 地 故 葉发 熟 不 惟 水 痈 病 手 穀 此 瀉 欲 起 也 濈 小 作 而 便 浙 固 然 北

猶 以 陽 ---1)it 17. 飽 故 無 1 也 北 刊 陽 13. 條 在 111 便 四 胺 寒 辨 故 不 欲 他出 作 不 坊河 京化 15 儿儿 疽 F 以 गित 共 浉 鴻 尚 也 有台 再 上 條

陽病 程 酮 作 應旄 城建其 知病 主牌月岩城大 少陰盛則寒而 之开以天 固 緩 瀉 渡 固者人 则 關 本 曰 地 於寒宜從 汗熱穀 、是寒濕 水穀不別 评. 地之兩名之陰 如其 弱其 所 其汗蒸蒸 不下 雨 而 不止之謂 不 屬濕 寒治不 寒則為 1/2 化 純 發 熱 熱 之 脍 汗 陰 而 陽 故 偏 也 感 获 亦 也 滲 和 1)-弧 復 省 叫 若 便 划引 而 固 是也 寒而 為 後 惡 3 溫之證也 渡 也 陽盛 寒 此 者 有 涵 不 114 雨 渡鴻 計間 肢 陽 档 可 吧 下之 手 此 但 九 中 轉 心 足 也 则 屬 俗 熱

明 武 與 也 会をとうる 但以法 太 下皆有朋文 有遺誤王三陽亦 15-陽海脈 但以 其不經過下 便 則戛氣 者之義 陽已轉屬 數 者 救 法 盘 严緩 大便必赖不更 救之渴者宜五茶 之五字當是若小 9年1 和緣 相合此 也 陽明 邪 丽 弱中 燕 何 苏 條病 自傳於裏病 而 也 此處五春散 有 風 勢不 小便數 衣 ルル 血底 下 也 便 一廢熱 痞 不 念 救 人不 者大便必 利 無所若也 薬能 認 心之之文 カ 此 汗 用不然經文渴 與上 出 孤寒而得者此 心心 以勝下之 惡寒中風證 海欲 文 殊 軱 覺 小 然健 飲 無 便 部必 水少 數 F 地

1

1

しむは来からいい

註集 可議 張 與 十餘 化宜五苓散以導 之以滋其胃可耳 陽而不治陽 爲 下與之可也 in 北 關 目 誤 無或滿或痛之告是仍屬延燥 不 浮 明 ML 更 如 何 其所停之 共 或 灰 語 或 發熱 可下之證當 渴 ifij ni-小便 欲飲 不 汗 车 用 水矣蓋病 攻 水必 結 伐 利 私 耶 是門中 寒純是太陽中 何 而渴者是 如 也 E 胯 此 乾 不實 文 Thi 非 燥 之 華 雄

福多野でなが

旣 心 漸 偏 慈 於 乃至 13-便 不 則 大 惡 腸 寒 失 而 其 冯 潤 邪 iffi 入 大 赐 便 明 審 鞭 與 矣 賜 然 中 明

是 涯 號 不 阿 1] = 所 便 以 數 旬 目 大 不 便 更 鞭 种 水 景論 無 所 当 中 扣

仲 頌 用 藥 處 俟 其 陰 陽 自 和 何 以 貝川 無 11-治 便 法 漸 耶 此 JE.

自出地

明 病 ME H 心下 家實 誕 條 脫 This 堀 निर्ग 者 心 鞭 死 其 7 不. 不 ज 藥 更 攻 汞 浦 乔门 之 自 ri: 攻 目 不 石 無 之 17 利遂 攻 所 洲 2 苦 退 不 談 即 若 攻之變 止 攻 舊 ولا 耆 可 炬 愈 其 利 地 也 止 茅川 陽

1 1

1

註集 朝 虚 满 號 認 心下 二 或 類滿 問結約 與牛夏瀉心 而 痛 浴 间是心 者 易之 爲胃 N. 中 1. 鞭滿 下海與客 故可下 又 歴 此 Name of Street, liil 談 何 云 痛

也

諸虚 者不可下下之則大渴 者下之是為重虛 存 故易愈岩惡水 陰 者 陽 求 津消亡自 水者易愈惡水 氣 已絕以難 然人渴其求 愈矣 档 水

集 程 應 者亡陰惡 旄 曰諸虚者陽津 水首亡陽 陰液 故 有 必有 愈 尉之分觀 所じ 校 下之 此 知 列大 求

下之助陰 花於 處 淚下之亡陰矣

如上

必自愈 全多路区出了人 下之後復發汗小便 明病下血嚴語者此為熱人血室但頭汗出者 註集 而為之斌 治之 程知曰言下後復發汗有侯津液自回之法若强責其小 愈矣 也 大下之後復發其汗重亡津液小便當少以 勿冶之言勿利 則膀胱之氣化不行有增鞕 胡 A 汗 出則愈 不利省亡津液故也勿治之得小便利 其小 便也須從津液回 以滿端 脹 明矣故宜以不治 而 水 小便 東川 液內 期門 利 竭故 心

111とはんだを見 から

夕一 瀉 直 必 病 通 有 越 7 則亦 क्ति 身 玩 從 轨 從 行至 缺 汗 寒 傷 目 語 出 蒸 有 寒 從 盆 MIL 必 明 胸 15 室 迎 但 Titl 赐 艎 乳 身 MI. 解 中 ML 明 頭 頭 也 Y 矣 遊 藏 内 汗 溉 汗 裏 而 校 岩 外 散 期 出! 廉 語 至 也 門 而 加上 男 所 下 汗 划 出 子 俠 註 亦 旬 東リ 以 些 解者 T. 寫 75 膦 而 独 嫭 其。 愈 見 熱 入 hu. 門 亦當 人 也 HIII 熱 氣 太 施 室之 陽篇 來 街 此 去蓄於陽 室 hi. 熱 t a 痢 世 室 MI 中 期 證 MI. 室 北 赐 門 宜. 2 Wi 明 热 刺 則 血饭 7 随 期 H4 脈 似 把 MI.

调 明 19燕 病 氣 不 LIL. 期 在 者 昌 明 口 1: 阿 馮 室 應 經血血 属胃 雕 燥 通 日 档 也 雖 旄 姚 口中 故 燕 但 但 衝 開 Thi 道 欲 濈 頭 入 鳜 下 血妄 7. 隐 乾 竅 浏议 YT 血 所 构 於 出 則 YF. 水 屬 分 寶在陰 出而 不 如 與 者 ातां 經 欲嚥 渴 必 熱 赐 · Mil. ルル 衇 在 宏 致 明 下 經 解 奪 隨 者 實 州处 有 虛 到 經 加室 此 其 魏 姚 而 則 址 不在 角 必 故 無 得 之主室 This 欲 乘 向万 汗 口 府 處 稿 燥 熱 晚 2 土 ता 在 也 知 則樂 擾 被 血 但 不 熟 fil 欲 則 渴 TITI 室嚴 擾 抨 滅 不 也 蒸 故 和 在 水 心 也 旧月 神

ľil. 明宗 得 燥 洗 111 液 的身 境池 燥 知 液 邪 市 出 血 也 分 欲縣 陽 明 之 邪鬱於經 鲸 連 於身 未 砂

於 府 也

沈

陽

明病

水

而

脈 浮 發 此 熱 承上 口乾 條詳 鼻娛能食 出 施辰 證以互 者 則 發其義也陽 剪

明

病

衇

浮

殺

熱

口

這

表 從 衞 作解 乾 解 也然還表作解 熱 也 在 蚵 經也 MI. Tri N: 解 其人能 者從樂 不 解 食 解. 於 也今 篩了 則 為 則 解 旣 胃 能 於 和 食 樂 胃 加刀 汗 和 出 fil. 則 則 MI 邪 解 知

德

從 解 也

This 陽 人 明 雌 訟其人喜忘者必 明 発型 張 大下之者以其 執 共併故 也 曰血併 鞭 病 熱 绷 其人喜忘者 ナ 循 斯坦 則 血之屎雖 便 加斯言 明 E 倒 た下 此論 反 反易 明 大 易 病 来型 亂 其色必黑者宜 赐 人本有 This え、 ME 本有人 朝然大 而喜 有 在 色黑也不 川月 前 音血 胃府 鄉 上 八縣之 忘喜心者好忘前言往事 故 脈燥 縣之血 所 非 便 熱也夫 乾 V) 国 川 反 然者本 量 抵 能 别 加 桃。 食 燥 仁永 其色 與熱 當傷下之 放 不 姚 1483 也 傷冒 氣 信 在 必 1. 致 黑蓋以 人 整 併 湯而 加引 於心故 氣 **瘀血故令**喜 也 衇 故能食能 故 北 峽浮 MI 崩

ノんず、日子丁ノ

註集 明 張 略問 Mi. 在 膊 太陽 胃蚊 畜 深 減 其 加 在 大 膀 便 胱 故 之 黑與 驗其 小便之利與不 和小 队

淶燥結 賬 璐 日大 則 便色黑雖 晦 如媒 此為 恒 瘀 明 辨也 MI. ifn 結亦黑但

瘀血

別黏

鄭 加 重 下故 日太陽熱 用桃仁 結勝 承氣 朓 湯 部 田 勢而利導之發狂 輕者如在重者 發 省血 狂 如 狂

用抵當湯此條喜忘差 經 少 血陽 明 經 mt. 滅 於狂 以宜 乃用發在之重 用抵當湯峻 劑 攻 何 也

主之乃確然不易之法 此 云宜用則證有 輕重

酌量

2十人大多日とス。今面 不解合熟則消穀善饑至六七日不大便者有瘀血宜抵當 人無表裹盜發熱七八日雖 寒七八日難鹹浮数不可汗也若屎 黑乃有瘀血熱結之不大便也宜用抵當湯下之若鹹敦 既能消穀善機是胃和合熱非胃邪合 **w數不解而下不止必協熱便膿血** 此 便若不能消穀善機是胃質熱也以大承氣湯下之今 不浮而數不解是表熱 承上終言部血喜忘執 人無表裏盜是無太陽表陽明裏證也但發熱而無惡 去裏熱未去也至六七日又不 蜒浮数者可下之假令已下 蜒 結而無表裏證者當下之義也 也 鞭可下之假介已下 熱故尿雖

不管了上一人数一个一个不不

上上上

註集 張 盡 7 血 在 既多反 引那 璐 也 解 則 以 .int. 、熱結在 病 不宜 .mi. 抵 内 與 至六七 當為 人 雖 便 也 不 所以 下血血 七 為黄所以 用 鞭 抵 至 ML 加 當 以其表 當 脈 而 日 日 1 尚 不大 也若 果 數 利 然 發 梨 者以寒濕在裏不 便 止 之 觚 解 Z 必有 内外 衇 矣 倘 数 用. 不 浮 MIL: 合 数 人 煩 分 解 終為 %的属 渴是 兼 邪 之 1/11 ~熱 邪不、 太陽 1/11 1 利 知 規 太 5,1 消穀善 随 共 解 以诗 腐 經之 滋 表 故 除 止 也 必 非 訟 Mij 當 協 以 载 弘 檢 熱 隨 未 爲

础 **复题**与金额

不可下也於寒濕中求之

傷寒發汗已身目為黃所 以然者以表有寒裏有濕未解

故 也夫表寒裏濕藝而發資 不可下惟當於表寒宴 自非熱濕內來藝而成黃者此 **烈中求其治法宜發其表** 利

其裏濕可也

註集 **喻昌日傷寒發汗已熱邪** 然者寒濕轉聚適在軀殼之泉故爾發黃也裏者在內 解矣 何由反蒸身目為黃所

也於寒熱中求之求其寒濕中之治法也 通 稱非謂寒濕深入在裏盖身目正屬鄉殼與藏

府

應施日共人素有凝彩在夏表灰雕經發汗而其為些

1

傷寒於熟在裏身必發黃麻黃連昭赤小豆粉主之 該傷寒表邪未解遭過其人陽明素有濕邪熱人 濕所持者終在 而 小 治之可业 熱非質熱 濕熱蒸無外薄肌表身必發黃也若其人頭有汗 昌曰傷寒之邪得濕而不行所以熱脈身中而 便 小豆湯外發其表內逐其濕也 利是真之族熱未深表之營遏 大便襲則或清或下或利小便自可愈也今乃 也故不可下仍當於寒濕中買其或沒或深 裏的無於解散也發汗後之寒與消 猶甚故川麻黃連 旭 人東河與 發黃

和不多日上行人的金 失 逋 而 汪 林 泥 此 程 陽傷寒 應施日凡 辦 之叛熱未 观 灁 驱 裏字豈有 熱被 赤小豆 日麻 散今雖發黃 H 大災 陽 建宜 令其 黃連 期 老 湯是其主 經 深 那 那 傷寒疹熟在 一川麻 就從 在衷而 FI 人 枢 VI 身目發放 猶宜 外· 力文 黄湯 而來若 表一邊 多之。東 兼汗 地。 瓦 雕 裏者 治 瓜 日 開其 其表 在 挾 創 机 解 因 时 州 更 尚 111 此 1/1 鬱滯而散除 20 濕 必 Yri 開 傳 修 花花 燕而 篇 乃是 孫於經 陽 -By 用 理 邪氣 哉 也 11/5 所 太陽 秋, 旅 來 マニ 故身 在表 郷設と 終 於某 經傳 之中則 之時有 必

其, 直次十日

老和 日

麻 連 梓 加口 取 也 白皮之苦寒 三升 去節兩 惟 軺 下之表質者汗 八 兩 小豆蓝聚之甘 其。裏有熱 赤 小豆湯 分 味 、無表裏證 溫 以 連 赤 小豆 三服 源 部 以清 水一 ----所 之皆 以为 华 兩 熟盛 丰 平 目 升 解肌裏之瘀熱 則號 先 無非 中 以 煮麻黄 杏 大 献 期 清之小 為病 散 棄 脉 攀十 共四 黄 在 再 二 皮十 形 表 湯 去。便 枚尖枚 沸 也 1/11 之寒濕復 路也用者 去、 去 上 桂 生遊 生 枝之辛 沐 麻 白 炉連 内 皮 郭 刻

でなるとうろ 胡

解集 周 治表質發黃之效 開其表 其樂衙也 楊俊曰此亦兩解表裏 使黃從外 加迪昭 也連軺 梓皮以寫其 ring 散去桂 沙 即 机校 枝 連 熱 熟 省 赤小豆以利 FIJ 避 村衫 無梓 共熱也佐薑東者 外汗之藥 皮 以茵 心。 濕

之味傷寒發黃者必其人太陰素 有 ~ 濕熱更 兼 寒 未散

顷 羽 相合因而蒸糯為黃 北

身黃熟熱之為病 日身贵如橘子色小便不利 也濕盛於熱 則 黄 腹 從滿者苗庫高湯 色晦熱盛於濕 則黃

如橘子色者謂黃色明也傷寒七八日身黃色明小

色

明

即在於政府公下人在歌門紀可可正值 茵蔯蒿湯方 芮陳高六國 註唐不嚴曰熏黃陰黃也橘子黃陽黃 腹滿自可 程知曰此驅濕除熱法也傷寒七八日可下之時小便 便 君佐以大黄使以梔子令濕熱從大小二便鴻出則身賣 利腹微滿可下之證兼以黃色鮮明則為三陽入裏之 之可下者猶必以 不利其 疑 以苗陳除 除矣 腹酸滿此裏熱深也故以茵腹苦的治道病 栀子針 濕梔子清熱用大黃以助其驅除此 除濕為主而不專取乎攻 四 也 が一 下 有如此者

不多是一个一个一个

右三味以水一斗二升先煮茵陳城六升內二味煮取三

升去洋分三服小便當利尿如皂莢汁狀色正赤一宿腹

滅黄從小便出也

傷寒身黃發熱梔子蘖皮湯主之 註傷寒身黃發熱者設有無汗之表宜用麻黃連軺赤小豆

外無可汗之表證内無可下之裏證故惟宜以栀子葉 汗之可也若有成實之裏宜用防族高湯下之亦可也

陽清之也

集 林淵曰傷寒身黃目有疾熱須當下之此以發熱而熱未 實效宜梔子葉皮場解之

という ところく ナイナ アラナ かんかん

梔 按 葉皮場 魏 證 此方之甘草當是 表 一、鬱以 荔 號日身黃 則 之發熱也 三味以水 形 在裏濕勝熱勝尤當加意也豈可 退其 E 此 黄 杂 四升 三條雖皆 既徽而 則 發熱者乃黃證中 發熱自 煮 苗陳蒿必傳寫 甘 草 取 發黄雖表 外 災 升 寒挾濕之邪派而成熱之證 愈 H 半去 举分淵耳 之 而 黄璇 發熱 非純乎表證 檗以為裏證 Thi 北城首 朋友 兩 但當清 1 走

註集 多四点白出 明 之則熱 熱從外巡 病 偷員日陽 津乾 從 共熟新 地社 濕化必發英宜放陳請湯 被 不可得矣 明 火 引 城 No. of 無汗 TR 額 飲水停為 愈 愈 1 便利則 上級汗 朋 インフリ 英 發真之變安能免 階 外裁 沙丙 不以為根湯 清 津被上奔 濕戶熱鬱 可免小便多熱從 出 液 從燥化必 熱上蒸放 愈傷而 mj 小 發其 M 便不 雕 順渦有 頗為宜白虎湯 汗 額 上微 利 汗 從 與 者必發 下洩 汗 小 Tri 以大加 加勢必發責然 便 而 Y-T-則 周乌之汗與 愈 不可得 武可免若 周身 取 150 汗致 便 反 矣 誤 利 攻 出

·陽 註集 斯 心中懊慢濕瘀熱鬱於裏也故身必發黃宜麻黃 懊憹省乃熱鬱也非濕厥也便 小 程 便 必 豆湯外草 無汗小 熱不得越故宜分經 軟者宜梔子豉 明病無汗以熱 知日太陽發黃的紫鬱濕濕不 曰無 地 發內利 便 不利 小 湯涌 可也若 無從 心中奥 便 不利則濕停 外越 之可也 論治 經汗 機者身必發貨 地 鞭 小小 下後或小 者宜調胃承氣 便不利濕不能下泄 得解陽明發黃 懊機濕停熱機 便利 In 邨 心中

在全年民日に刀人丁 學先 P!

阴 必蒸身為黄也 璐 一外不得 不可攻之必發熱色黃 下不得溺 而濕熱鬱於胸中不得泄 小便不

陽明於病 病 成 質 面合色赤 也故 雖不大便不可攻之若 面合當色赤是熱 邪 佛鬱 攻 之則怫鬱在 經尚未入裏 利 地

thi

發夷而必大便與矣

解必令發熱色黃岩其人裏燥

リト

便

利

則同燥

化當

註集 有執日合應也亦熱色也胃熱上行面 液故發熱色黃因 小 便 不利 也 應赤色攻則亡

日言熱在陽明

之經

不可

攻

也熱在

於經陽氣佛

不利 在表 也改之則經中之熱未得表散必發熱色黃目小 地

程應施日熱四於肌膚之間 故發 熱而 小便為之不

而成黄 地

而還小便不 明病發熱汗 利 出 褐飲 此為 水漿者此為疾 熱越不能發黃 也但 教 在裏身必發黃茵蔯 頭汗出身 無汗

陽明病發熱汗出者 也但 頭汗出身 此 無 汗是 寫 熱越 明 小 之 便若 一熱不得 大 外 便 越而上 因 藥

人 经四記傷 蓄膀胱也渴 漿 一熱的目 府也 此

也

小便不

利濕

不多見らう合 註集 於 通 逐濕族之黃梔 有執 以 内面不得 應能日頭汗出 利 大小二 交機影 一世熱性熱則黃散 ないない W. 国 一越散也 加 名し 越故但 便使 -能宜池故食 1] 便利省屬菜 利府氣過燥 濕熱 除胃家之熱大黄 身 ML 頭汗疾熱 屑故身 上蒸於頭 無汗 從 而發黃 劑 無 ·
繁而 頸而 發展 故 必發黃也茵蔯蒿湯主 頭 湯 寫 解熱 註 This 餘 選 出 背 諸陽之首故也氣 推 足微陽熱之氣鬱結 也 15-水 延 寒 之 漿 見 便 太 瘀 不 陽篇中 熱在裏 禾山 無 加 岗

寒 註集 蜒浮 此 便 太陰 太陰 自 足 鹹 浮 自 利 からかれ 地 गित 發 施 緩手足 档 一大黄滌 轉屬陽明證也傷寒城浮 黄 溫 故 不能 非 日鑿在 陽 乃 太陽器是 七 太 明 陽脈也 發黄至 為病 自溫者是 下通身 八 Y 明 太陰也若小 目 削 為繁在太陰也然太 七 之熱得泄 便鞭者則 於胃家質胃家之實不特一 證 三陰受邪 八日大 太陰而 為繫在太陰太陰者身當發 便 是從燥 緩手 蜒太陽 便 自 亦 又何黄之不散 鞭者 能 利 足熱者太陽 后 則 化 是 腐 此為陽 轉屬 陰脈當沈 陽明病也 邪 由太 MI 陰 陽 赐 di

不不多野人的人的人 能發黃 魏苏彤 之胃至於七八日 陽之分須 中本 三大承 手足自溫度是太陰轉 H 原 證 病 燥氣 便 氣證厥陰一小 無燥氣 以 經 发生 Ifr3 手 自 小便 例 利 足 也病雖成 陽熱為 小 則 也小 别之小便不 祗 脈 溫是 便 邪 自多大便自 便 何 於七八 緩是為 属 邪不 歸乎不得 濕鬱鬪聚於裏 承 自 而來 氣 利 利濕 者胃 部 何 地 目 即太陰陽 而在裏但 範面 不歸之 孤其 蒸 乾 非 熱派 華 便 始 扇 於 有歸著 場 證 m 陽明病 加推 發 明之病後 成 Ni. 挑 鹹浮 黄以

之內煩 傷寒轉點陽明 者其人識然 微汗出 りをなすってといる 陽病吐之但 凡傷寒無論三陰三陽若轉繋鳴則其人必有機減然 惡寒不欲近衣者是惡熱也此山吐之後表 在裏白虎湯證也吐下後心中懊慨無汗煩熱大便 太陽病吐之表解者當不惡寒裏解者亦不惡熱今反不 出之證 也 煩熱也蓋 内 太陽病當惡寒今反不惡寒不欲近衣此為吐 始為轉屬陽明 梔子豉湯證也有汗煩熱 一年 了一百工傷果論於以明 無汗煩熱熱在表人青龍器也有汗 世 地 大便已鞭熱 毛 解裏不 頫 避 熱熱

名人多四八八分鱼 **黔世之過也一二日世之者腹中機口不能食三四** 不喜糜粥欲 註集 陽病當惡寒 饮食冷食之下皆有五六日吐之者六字若無此 致逆亦誤吐之過也 竹葉石膏湯於益氣生津中清熱寧煩可也 之證較 類非未 聯目 胃承氣湯證也今因吐後內生與熱是為氣液已傷之 此 經汗下之質與也已上之法皆不可施惟宜 食 發熱今自汗出反不惡寒發熱關上 以吐而傷胃中之液故內煩不欲近衣雖顯 陽 光 以 上螩 冷食與食身吐以醫吐之所致也此 細數而成虚熱脾胃兩傷者稍輕 峽細 為 口 數

太陽病 病 女一二日三四日之文 解 鯀 一句 喜魔粥欲食冷食 也 陽 由淺及深之 也五六日病 朝 赐 吐之者傷 和詢 心思 食幕吐 明 上姚鄉數買不 不解當惡寒發熱 胃中 其故 1000 已熱吐 門未深 州 知 以醫 一謂 此皆醫 將 也 轉 與 故 叶 之 和 細 朝 首復傷 之過 助明全篇 世 今自汗出不思寒發熱是表已 食暮 吐之所致 腹 陰。 玩 海。 中 さ 細者目氣虚數者目氣熱證 411 也 正氣 貝リ 吐之文 津 機 一二日病在太陽 可 尚 已获 液歧 口不 知 水 必有五六日吐之 可治 不喜康 HF 能 相 食 鸦 故 地 砂粉 VII

不全地 为合金

150 遊也

註集 程 知 目 本 太陽病醫吐之 一則表 邪 乘 虚 傳入陽明 傷 動胃

程應 氣 則 非 क्ति 脾胃 施 關 日場明之氣 顺 本來之病此 湖 數 灰 1 為 行

為

順

上行為遊

以醫吐之

所致

食穀欲呢 逝 城 傷明也吳茱萸湯主之得湯反刷省屬上焦 也

也

おないので

小。

递

进

勿談治使小遊變成

被 蒙 欲 学 PER 也 Plin 以 屬陽明者以胃 吳萊莫湯溫 中 主受納 降 道 而此其 也个胃中 印配 寒 可也 不 能 得湯 納

剧者此

必非

中焦

陽明

之襲寒乃上

焦太陽之

病 氣虛 等等三大金 監 **脈數數為熱當消穀引食** 吳來蓮氣以俱熱藥 病 也 熱 **嵊乃數也數為** 同 也上焦以 脈數數 執 不下 能消穀食而反吐者 知 **衇數誤為表** 此 日食穀欲嘔 利 衇 為有 之數乃外 但 膈言 川區 L 熱則當 客 熟不 訂正傷寒論註賜明 熱 之 胃寒 例治 mi 也 病 發 之宜葛 乃冒 其汗 能消穀以胃中虚冷故吐 而反吐者此以發汗冷陽氣 消穀引食今食而反吐者蓋 址 合 熱之 故曰屬陽明言與惡寒 故反劇也法 因使其 製非 极加牛 本 虚冷故 目 陽 夏 省從人 質 氣微膈氣 H. 熱之 湯以 也 問題 100

不多 明 虚 註集 病 This 寒 虚 清胃 所例 程 熱 程 可 應 陽 究 知 熱 誤 能 能 旄 發 消蒙 必城 根 食 於 汙 汗 此言 乎 上 攻 田 過 則 其 祗 左 3 數 in 熱 由 能 矣 吐 令陽氣微 峽 後 12 必城 發 脈 而 常責 孙-溫 數 反 所 吐 故 时. VI 漏 **氣**虛 一當責胃之陽 目 氣微 然 對 製 4 者胃中虚冷故 2 為 虚心 客熱 虚 然 热 則陽氣 冷 脈 熱為 君 外。 無 虚 因 越 也 之 故 客 則 其 陽受 為 飯數 數 热 业 Mi 虚 VI 也 氣 投 為 血 H 重 膈

等一一一大金 第一人 外 四 記憶報 註集 計 方 林 效 陽 11 有執 攻 所以 戒謹之意 澖 明 其熱 日陽 城 胃 此又言亦 然者各熱雖除 中 曰攻 不能食者 必噦贼 明 虚 誤 熱皆 攻 謔 冷 之 不 語 不 寒藥 能食 可 湖熱 熱 為 即 夫 乾 攻 中 巷 杏 不 故 胃 噦 吧 寒 論註場明金篇 能 知 攻 亦 作 額 削 也 矣然則 食者 必版 詳 其 有 虚 别 熱 衇 則寒 可攻 2 數 胃 故 中虚 未 安得以陽 也以 客 其胃陽 由 匠 熱上 可 便 以不 燥 其 以 屎 人本来 條 在内 能食言 不 既 能 城 必 也 作 以 此

註集 藏料理 输 姚 共 宜. 雖 此 昌日表 琥 必城 理中湯 不改其 **噦矣法當大** 承 在陽明更 日若胃中虚冷 即飲 條 熱裏寒法 姚 能食 山坑 A 可知 水亦 丁香吳 攻亦 虛 飲 者飲水 浮虚相博放 温 水 城也 矣 貝可 當先 、茱萸溫 % 此 義也 能 則 條 蓝 ·
救其裏 以 食飲水則水 北 咙 目 既虚: 若 前條 合氣備言門氣虛 而 降之 其 太陽經 虚 人胃中虚 冷復得 可 寒 更甚故 寒 也 中 博氣遊 冷 亦 寒 不 用 能 四 進

印意是可於合盤人父四豆傷寒 則為敗此為醫營責虛取實守空迫血歐浮身中燥者必知血 誤攻飲冷皆可致的 今病呃逆之人與飲 何 胃鹹滑則為歲者乃熱 兒格兒之聲聲長時止 逆者不知噦卽乾嘔也 者此熱據樂分樂熱迫 則是胃處與 収質責虚 以自取 邪 相搏 固 其咎即若 以 血妄行必 矣今趺陽胃 者為實可治聲短 論註限斯念篇 水 氣擁鬱之的非胃氣虛竭之的醫 即不誤下飲冷亦合偽也者既陽 則氣 其有 贼 自 勝下衝 跋之聲故又名歲 作 趺陽胃峽浮而鼻中 **刨也世有以**歲 脈浮而 不大無力 上出川 而作 也 爲 恪 燥

治

方有執 日此又出 一跌陽 城 ity 以暖 與朝言皆逼汗 而 不

得

之所致 也俗 過您也賣虛言水病於虛 取實言反以

腐 質而 攻 取 之也 血屬陰 而為內分故曰守空迫血言却

汗也

脈 為陽鳴醫乃不知而反飲冷水合行大出水得寒氣冷 而醫反下之此守大 遊浮則無血大 則為寒寒氣

必相与其人必的

鹹浮大指六 飯皆浮大也六 飯皆浮大則非 出四字皆是行文

ういいれたいんよう世世

习

印 查及可以 经 图 可 京正信祭 童話男明 註程知**归**言邓氣在表妄下之變也寸口浮大 博則為陽鳴醫乃不 **呃逆也** 前浮級變而為無血之虚大歐變而為目冷之遲虚其 之大峽乃太陽不按之大峽也醫反下之此為大道則從 冷與虛相搏於胃中故 魏之證法應發汗若反下之此為大道院經安下則所開 浮者至於内空而無血 則為腸鳴醫見鹹大 而作汗裏先處寒又 知而反與飲冷水其人得水寒之气 所謂大 必的也的者氣信結打聲即今之 7得冷水 以 為 者疑為裏虛而有寒虛 有熱飲以冷水欲以水寒 與之相轉則 可無輕點樣

傷 不不多的中国分益 計集 寒噦 傷寒噦而 噦 自印 必 矣 至 外门 利之以降其 無已日城 而原腹 邪魚質風 咽情 世 时间 洲 日邪傳於胃川 不腹滿 寒 旭 1.前後 外口 MI 1h) 腹 共二 氣 利 氣 苔 逆矣 前 後 满 便 人治以五芥後部 部 烈 5.17 氣 何 何 Ŀ 点 JE. 小 氣 त्रा 偃 部 部 3 也 不 盾. 超 不 不 災來 選揚8 下机 後 兩紙 利 利 利之則愈 利之則 部 成技術 相 **排**氣 他 證 愈 深ij 世 也废 後 也 後 進上 有 循行 以承 利

御人を終り方と 監一人とう 記憶器論註場紙 夫實則於語虛 註載元禮曰語語屬陽鄭聲屬 擔語 游·語者颠倒錯亂言出 通氣 休以陽氣虛 語言重複其聲微短正氣虛 無次其聲高朗邪氣實也虛 鄭重 錫駒 不得 證有 頻煩語雖認而詩詩 日傷寒至歲非胃氣敗即胃中寒然亦有惡質不 下浅反上逆而為 則鄭路鄉路者重語也 不精明也 虚 有實質則語語陽明 此。 無倫 則鄭聲 **喊者**當 語鄭聲處實之所以不 除終 篇 常對空獨 不 也 己老年人過事則醉語 口質則誘語處 詳辨 精 熱甚上乘於心息言 南如见 神長乏不能自 鬼狀 川鄭摩 鄭聲

便為難表施喪實人川談 不多時間の 寒四五日飯沉面陽湯沉為在東面反發共汗津液越出大 音不正而語言重複批 他 親 其所云亦鄭聲也 隻全善日余用參者歸术等 張錫駒日實則能語者陽 不分處實一縣用黃連解毒 陳妄言 罵詈也 虚則鄭於 潔 别之隨證 不難辨但 791 施治可也 陽雄泉質 1313 朋 者耐氣虛而不能自主故 與陰盛格陽作能錯語類以 例治療語科館者甚多豈可 小承氣等得以治之平核 熱其而神旨氣亂故不 逃产

まっしていていたいんかとありるいよ

承氣湯主之若 陽明病其人多汗以津液 註集 計 裏實也人則門熱熾盛必 張 傷寒四五日入裏之時也城沉而喘滿乃一在東之常 喘滿而反汗之必致 方有執曰越出謂枉道而 氣證此以過汗傷 允當耳 略曰傷寒四五日正 反發其汗津液越出 人人 以 訂正位美論註 陽明全為 服 嚴語止 冷燥 結 外 出 那了 則表處也汗 致 胃中 嚴語矣蓋燥結嚴語類似 出 姚 發嚴語也 大質大滿ル指派宜 傳裏之時况見鹹沉在裏 也 燥大便必輕輕則嚴語 儿是 出胃如大便為難則 51 小 3 9

之下之若早語言必亂以表慮裏質故也下之愈宜大承氣湯 卷 且識語者以有燥屎在胃中此為風也須下者過經乃可 計集 病自汗出而臟語者以患有燥屎在胃中此 沈明宗曰此汗多 此詳上 過服反傷津液 中 利 不宜人 施 路日多汗嚴語下證急 声 燥 大便必 修以明共治也 **懷不可更服** 下但當界與小 君 也 顿人 17 一門燥非 川巌 也 承氣湯和其日氣嚴語 同實治也 語宜以小承氣湯上之若 矣以其人汗出既多津液 明病其人多汗以津液外出自

. 18 5

柳象塔夫在腦 註集 方有執 氣湯 燥 程 不盡且虛其中熱乘虛 出裏實識語所以必待過經入府而後下之則愈宜大 之所傳也須當下之然必須太陽之邪已過陽明之經 實語言更亂 日乃以下之下之早 知 陽門之府乃可下之者下之早則裏熱未結不但 在胃此當屬風 此言凝語不當 曰過 一次一回 訂正也表面正 明明全首 經謂寧遙 也 風 則 遲 爲 1 而上干於心語言必亂此表虛 早也 肠 非開必待十三日後也 風 邪 邪 陽邪人 未 铁 解於表蓋 川汗矣而 裹故 いい 嚴語則必 藏語然質 1/13

能 陽 明病 前后 革更 当 有 爾宜大承 熱反 V 氣湯 不 能 食 香胃中必 有燥屎五六枚 也 岩

接 红大 、承氣湯下之之義若 承氣湯下之句 應 必有燥 便鞭而 殊 五六枚之下始合當 用大承氣湯下之殊

失仲景顧處帳下慎下之旨

註 實地行大承氣湯 陽明病然語有 潮 熱 下之若 反 不 能食者 能食者知門將和在 知 胃中 必 有 燥 屎

當道之不可下也

張路 然花所 目此 以 能食 致 胃熱則能 不 能食 消製今反 辨燥結之微甚此滴熱譜 不能食此必 人熱傷門 FI

・・・・・ ハ

下利諾語者有燥屎也宜小承氣湯 與不臭 急祛亢 也此可決其有燥屎也宜 食也其下利之物又必獨粘臭硫知熱與有食合面為之 熱邪不盛津液不致大傷大便雖輕不久自行不必用 下利裏虛擔語裏實若鹹滑大怒兼裏急知其中必有宿 反傷其氣也 中津液氣化不能下行娱無遊改於目之故宜大承氣 知燥屎不在大便鞭與不鞭而在寒之急與不急便之身 地 極之陽以救垂絕之陰若能食者胃中氣化自 《於可京優 以小系氣湯下之於此推之可 泛

流 不 꺠 註集 站 部 泄 此 結 則 西西 涯 與 国流力 邪熱 語喘 已成 E 條 何 元氏 H 槽 鞭 तिग 龙。 爲 兆 龍 柏 致 以 語為 This 譜 攻 於 燥 死 有 彩 之 Į. 部 心 邪 脉 得 所 也 尿 利 所 不 叫 燥 龍 則 一部者於內其 日或問 * 屎 燥屎 也 條 也 世 部 THE. A. A. 祭 -村等五 要之 和 寫 (Ki FA 詣 17t 此 1] TR T 7 有法 水 語省死 19% 利 則胃家實與 利 須以 氯 弹迫 明府 員引 首或 热 爆 此 屎 氣 知 擔語 陰 利 得 當 無 1

H 陽爭於上 太陽病 神 利 死 有執 氣 於 不守乎心也已屬 不守故無法可 燥 1 EZ-陽病見 脱地故 發汗者亡其 自直 傳 發汗過多 利 利則陰爭 浦 視精 赐 死於直視也直 日亦 明 陰 不 क्रि 血反 不 於 生嚴語嚴語者日熱陽也 解又復重發其汗以致氣 死 惡侯加之喘滿陽上 為陰勝於陽故死也若無不 下胃 嚴語紙好不及此口 而皆主死 於目也譫語神不主乎心也當 也 視者精不注乎目 也島陽乎奪於上 世 E 一脫也故 和 液 11 国

省 法集 病 閘 特發丁過 汪 例 部。 離以生死 琥 孤 陽證見陰峽 必 相背也 也下場 熱 日 邪爽心 藏語者與當 方註 八 放 多 गाः 病 及傳 但 Z 兼 以 死 陽明 之候 難視 此 地 业。 從 血於 赐 寫 所 小 大質或洪 定 明時正發共 法 不 存 者除氣 死指嚴 陽 陽 间 耳 同 方有 經 施 皖 形配 矢豆 滑寫自 語級 部於 销 耳. 则 陰陽不 10 故 汗 部放此言太 神 因行 知太 规 湯不定面 為 和 上陽 附 自 邪 經 热盛 血淚 和 無誠 而藏 陽 者言 和 則 經 JE 得 見

明にいって、水ートーーガラングを引き

液後自 發汗多亡陽腦語者不 桜 湯麦 寒汗出惡寒故 也 若發汗過多大亡氣液 有湖熱惡熱 汗過多亡陽能語 非熱甚內實之辦語不 又承上條以出其治也語語者屬陽明 愈 無於熱汗出恐 解與柴胡桂 於 [] 前北 (集論法 陽明 可溫 pj 便也 枝 下與柴胡桂 無 此 也 可 其 呵 便鞭滿遍 發語語者乃津枯致燥之驚 樂衛以通津液 也裏有熱宜白虎加 知 级 核湯 被不可 出過多效雜語 和其學術以通行 、熱質可下之 致然語者 -後自念

削 明中風 浮無餘證者與麻黃湯若 續浮之浮字皆是弦字始 **庭**朝之小差外不 乾 其樂術通其津液自 麻黃湯 俱 不得汗嗜臥 脈 岩 弦 浮大而 刑 祇 則上之浮既宜 用柴胡 当 解 短 氣腹 可 及 病 X 愈 過 恐 與文義 都滿 尿 悉黄 則端 地 升 腹滿 拟 用小柴胡湯下之浮叉如 H 小 便 難 有 声 脇下及心痛 語是也然合 非亡陽所宜故合 相屬則可以 加贼者不 與小柴 消期 與小 熱時時 治 110 八 桜之氣 紫 胡 胡湯 赕 胡 血板 别 和

記 黄 間 敗 遜 鼻乾 俟其 病 血派 無方之 太陰證也 地 風 浮 病 陽明 湯 解已成危 傳 11] 明祕 势 世 太 斯L 小 陽 條皆是 所向東 場脈 企 小柴 明病 耳前 也 业 小 脇下 便難 也太陽 胡湯 後 不 候 太陽木罷 機 此 腫 得 如過 等陰 少 及 汗太 加 論語 施 陽 · De 明 陽銷雜 府 使 易證 證也 痛 鹹當浮 治 飯也 施定統 場別之別 也 部 一次之氣 也初於以 林 独 也皆臥少陰澄也 血灰 秦 集混 消之 孫 但 緩 113 验 既兼凡然 何 从 不行首 顺 派 不辿 明泉於 弦浮大以少 陽 业 亦 till 快少炒並 小差岩: 邪機 比例就 別之災 1559 心。沙沙 已向 A STATE OF THE PERSON NAMED IN COLUMN TO PER

峽浮 不不多を下た 註集 而北澤為陽北為 程 用 之使陽明之 F 知目 歸於胃而成實更加 應 之外以 白尾鲈有 湯間以通 A 日此條證 北上 如族無之 條全是表際未 Thu 無徐 潮熱而無 邪 從 其人間線 坡 以不付 降学生 不可 太 部 自 陽 随 治 是要付汗 解若 相特日然在就工場則 滿路西流波下 厥 猶 解 11 邪 顺 Wij 17 宇寫 滿 沙斯 E 無 E 迦 向 門凝 けいた 大防衛 基等遊 大學 士 H. 别 西归 日病 经 羽 重 ES! Kill | 13/2 旅遊湯 游 勢 不滅 也 被 胡 胨 P 11

即為於完子企監 社 方有執口浮為氣上行故曰陽北為血內損故曰陰目 趙 言陽亡津液絶也 城戸而北浮為陽盛北為陰虚陽盛則發熱陰虚則汗 沈明宗曰此辨陽明津竭之脈也浮為邪氣强花爲陰血 婚灼竭絕不止耳 張略曰此言贈約當下不下則浮濟轉為浮花津液竭 生熱者陰不足以和陽津液乾而成枯燥 下矣其陽則絕即陽絕於裏亡津液之万辭 良曰目中陽熱亢甚脾無陰氣以和之派陽無偶不至 相搏則胃氣生熱愈盛胃中津液立亡其陽 **送回訂正傷 寒論註陽明金篇** 臣 也 則絶

名

而 陰 血虚 浮北 相搏胃氣生熱故曰其陽

明病反無汗而 絶 即亡津液之互詞也若見此脈當養津液 小便利二 = 日嘔而欬手足厥者必苦頭 可便攻也

岩不效不喔手足不厥者頭 不痛

出陽明病法多汗反無汗 日幅而效寒邪上逆也手足厥者寒氣見於四支也氣 而小便利是寒氣內攻也至二

遊 則欬而苦頭痛矣若 不效不嘔不厥則頭不痛此證之

頭痛者標也欬逆手足 厥者· 本也

知月 無頭痛諸表證也此 無汗小便利嘔 頭痛是二三日後嘔欬 所 初

これにはつこうにからしていていていてしているがなってくれて大

表證未 者那 致 深也然小 張 必苦頭痛仍宜 為 路日陽明無汗喔 也然 瀾 貝リ 因 厥陰有之但 日須識 必順水道而出量 頭痛致嘔欬而厥也嘔欬二證太陽少陽 解 解則屬 頭沓 便利 ざ可能傷 陽 頭 小青龍主之若不嘔不欬不厥而 太陽 明 則 mi 欬 邪 無喔 亦 自 有 欬 病 有逆 手足 與欬 其寒熱往來者則謂之少 與陰寒但厥者異矣此類 手足 在 寒論計陽明全篇 內而在外不在 攻崩頂之理 厥證胃主四 厥者得之樂術俱傷而 也 下间 肢 哉 中虚 机打之其 氣寒 陽病也 數 小 邪 利

一名金里一一名鱼 名口

駒 曰嘔欬手 足 厥 頭痛皆由反無汗之故也

阳

不 掮 明病 註 風 傳 但 明病當惡熱不惡寒若從傷寒傳來則不能食今從 來故能食也傷 頭眩 恶寒 故 寒 挾寒邪則有頭痛證今中 食而 **欬其人咽必痛若不欬** 風 者 挾

邪 則有頭眩器理固然 也寒邪屬陰若兼 飲則软 風

類相從也

咂

गीग

咽痛則以

風虧

陽邪風病則兼火

故欬而

阳

痛

註集 方有 旭 門胃之系 執 日蛇 風 也目熱而 旋而 目 氣 運 也風 逆攻 故不惡寒能食欬遊氣 咽則然而 咽 傷 也

作并上版中一个个政立中事一一样子

程 加 知日陰 頭眩寒則嘔不能食風 邪下行故無汗而小便利陽邪上行故不 則能食寒則 頭痛風 則 啊消 f

風寒八胃之辨也

證中風 寒上攻能令欬其欬兼 則有頭眩證以不 日陽明以下行 嘔故不能食而手足厥熱上攻 為順並則上行故中 一惡寒而能食知其鬱熱在裏也

胃府之門也夫 效能食 咽痛惟 小 THI 陰有之今以欬傷致痛若 咽 痛 以胃氣 上通 於肺 孙 明

附不痛况更 有頭眩 不惡寒之證益可辨其為陽

於紫

盐病人 註集 李四十八五位一个个 有寒復發汗胃中冷必吐蚘 此承上條誤而又誤必變而成遊也胃中虛冷本因誤汗 必此下不止之下字當是衍文 程應施口汗生於穀精胃中陽氣所釀也有寒復發汗知 烏梅九可也 胃陽不復存於內矣蚘 陽氣愈微胃中冷甚此不能安故必吐此也宜理中渴送 水藥不得入口入口即此而為遊也若更發其汗則胃 水藥不得入口為逆若更發汗必止下不止 有寒謂胃中寒也復發汗謂汗而復汗也胃寒復 何能安

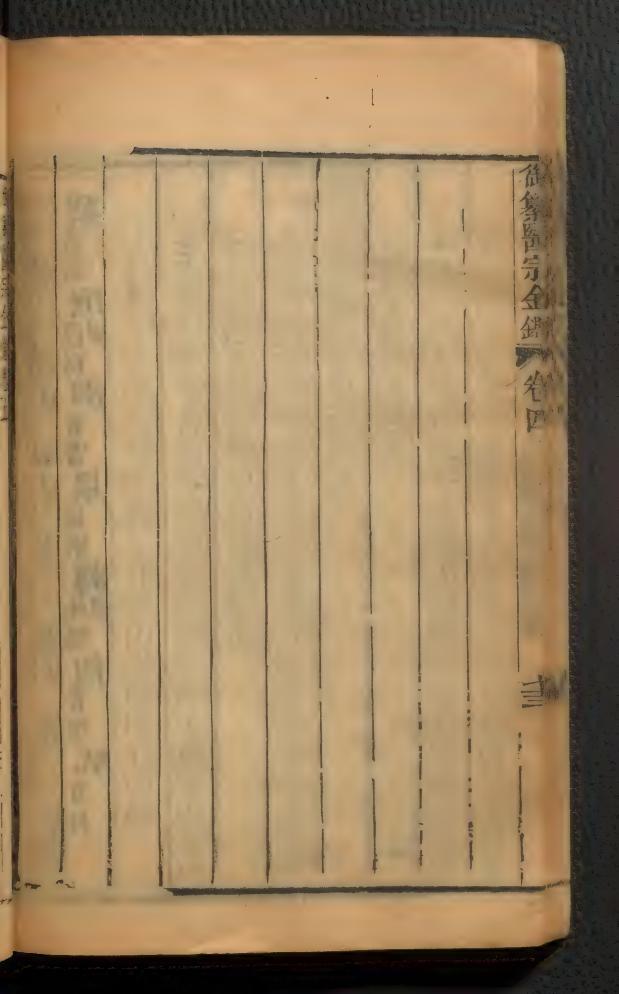
THE THE PLANT OF THE PARTY OF T

嵊浮而遲表熱、裏寒下利清穀者四並湯主之 註 成無已日汗後水藥不得入口為之吐並發汗亡陽冒集 註陽明病鹹浮而遲浮主表熱運主夷寒今其能下利清穀 註汪琥日陽明經病脈當從長今縣 寒故 是一下人 虚冷也若更發汗則愈損陽氣胃氣大虛故吐不止 則為果寒太甚法當溫之宜四強湯主之 也 程應能目發汗後見此者由未汗之先其人已是中虛 益甚不能司納不特水藥入口方吐且必無時而不 誤不堪再誤也 一 等 可正傷寒論主場明全篇 27 但浮此在表之熱疑也

陽明病欲解時從申至戌上 不会下了点金 於音無 時音夫 事音 國 及音 東 故 音 其 於 音 其 故 音 五 新 音切 張志聰日經云日西面陽氣衰陽明之所主也從由至戊 凡陽明病無論在經在 已極 上乃陽明主氣之時表裏之邪欲出必隨旺時而 穀其所利之穀食色不 變氣不與即完熟不化也此裏寒 旺時也經氣旺則邪氣戶退故解 府病脈當從數今脈過遲此在裏之寒莊也故見下利清 放 與四進湯也 からし 府必乘其旺時而解申 也 西戏赐 解 明

LA TIL

明李香云之监外多月市 **美音伯孫即到佛音带尿同湖轉林戀的音噎此音四上聲應音擾實古對水物律直音且腹陋牙被音瘦於時** 4 **兆論註** 場別企篇



印影等完全監一等五月蒙		柴胡加芒消漫	大柴胡湯	黄連湯	柴胡桂枝乾薑湯	柴胡桂枝湯	小柴胡湯		御集醫宗金鑑悉五
								寒論註少陽全篇目錄	

在拿馬巴二人工出 こうないことでにてんいんとうなってい The series

御 辨 言了 纂醫宗金鑑卷 小 IE 之 加 减 太 半 陽 "易 仲 柱 拒 枝以 陰也 主春 病 景全 -此 表 施 版公 往 113 際 半 衇 汗吐 其氣 亦 取 裏也 書 然 那 證 寒 汗 小 幷 傷 其間 熱者 柴 及 下 华 华 治 寒論 1 胡 三法 表 出 全 後 陰 訂正傷寒論許少陽 用 加 者 地 篇 胸 陽 柴 减 俱 謂 外 胡 脇 法 在 相 在 半 桂 滿 中 所 移 列一 在 禁 枝 寒 叉 微 地 之 中人身 有 热交 結 故 太 蛇 語湯 立 口不 陽 小 也 便 小 作 渴 柴 4: 邓 之 裏者 利 身 胡 氣 JF. 渴 有 湯 相 亦 持 謂 微 In 和 如 熱 進 解 在 之 胡 法 被 唱 退 内

行 之爲 病 消 主 以 證 之及柴 微 湯 先 具而 施 薬下之微 治 下之等法 煩 不 者 反 可 為 胡 下之心下滿 本 詵 證 是 利 E 解华 仍 自胺 也 仲 胸 在 也 景亦 與 拉 脇 先與 大 也 滿 而 柴 有 鞕 THI 胡 汗 小 痛 吧 柴胡 湯 日 1 者 之法惟在臨 晡 下之更有 此爲結胸 湯 潮 嘔 熱 者 不 也大 本 It. 小 柴 N. 柴 諺 陷 1. 胡 胡 胸 證 加 瞪西 湯 因 这

頤 溢 額 1 也 咽 邪 傷其經 乾 者 熱耗其津液 故 口 苦 咽 也 乾 日眩 目

は、質なないは、一人ではゆっていかしかんというとない

陽

病

口

苦

四四

乾

小

陽

者

膽

經也

其鍼

起

於

目

鋭皆從

耳

後

入

耳

中

挾

四日

出

15.

也

口岩

者热蒸膽

氣

挑薦

眼發黑

也此

は少りは一

揭 中 風 傷 寒邪 傅 少 陽之 總 利 凡篇 中 称少 陽 41 風 傷

者 刨 具 此 證之 謂 也

註集 林 胸 朋 爛 痞 日 口論中言 鞕 半 表 半 少 裏之 陽 病 證 期旬 詳 肠 矣 捅 此 耳 何 弹 11 往 国 來 寒熱 口 岩 川均 心 乾 煩 喜 目 其左 旭區

也 抵 病 於 經 絡 者 此篇 請 條 已悉之矣若膽熱 府

貝可 又 必 有 此 證 也

絡 沈 明宗 於 耳 目此 故 胸 脇 鲢 痛 少 thi 陽 耳 總 冀 證 仲 然偏裏矣 景 另 出 手 ツ 眼以 場 主 膽 補 共 咨 衇 循 叫对 肠

央 眩 でを監 之裏證 馬句 日 小小 定五 陽 75 括 少 訂正傷寒論紅少陽全篇 陽 世 風 小小 傷 衞 陽 寒傷 樂 相 火主之 風 寒 兩傷而 從 化

H

和 できたとうなる 発子子

盛 則 乾 故口苦咽乾也少 陽屬木木主肝肝 主 目 故病

則 目眩 世

魏 荔形日膽府與少陽經為 表裏而非半表半裏之謂

必 在 表者對太陽之全表言牛裏 悉具者指或中餘證而少 半表半裏之間總以經絡 之界為言又曰經中 陽經膽府之主病未有不 者對太陰之全裏言故 所

少陽

謂不

具而遽可指為少陽病 成 者

悸而驚 盐 陽中風兩耳無所問目 陽卽首係口苦咽乾目眩之謂也中 赤胸中 滿而煩者不可吐下止下則 風謂此少陽病是

が、中でようして、たけないとうが、たっというと、また日からは、なる国かいていて、中

註集 中 從 中 满 支 陰 神 中 琥 知 於 之 風 日 志 者 目 老然 吐 何 而 小小 小 羽 之 ان 虚 曾 則 煩 陽 也 傷 陽 怯 陷 羽 缺 有吐 シエ 惟 則 川间 然 盆 傳 吐 氣 岁 满 此 來 且 悸 下 氣 也少 胸 1 虚 F 和 rhi त्ती 乃 之禁 部形 貝刂 游 小 解 煩 中 陽 也 津 悸 若 者 陽 循 吐 此 北 华 協加 液 10 派 之 則 表 因 揭 故 表 鯳 其归 煩 中 全篇 N 耗 不 半 AIS 起 裏之胸 中原 满 虚 風 傳 目 MI. 呵 故 其 其 21: 志 MI. 那 銳 誤 陽 下 痣 傅 經 指 痣 岩 行 In 少 湖市 從 校 陽之 衛馬 故 吐 吐 悸 耳 ifij 目 赤 後 1 15 煩 则 非 Trus 耳 入 法 綱 虚 则 弹 太 耳 也 陽 FE 朐

布 多 图 另 分 至 一 是 子

寒 血压 解 明宗 荔 弦 證 小柴 形 料 頭漏 想 同此 可無事 胸 胡 宁 胸 發 為 係論仲景 少陽 中之 煩 熱 他求 湖 對證之 氣 屬 似 少陽 使 乎 也汗吐下三法 不 可 出 羽马 藥 nF 方 内 小小 小柴胡 併 陽 斯 但 通 TE. 用 之方次 少陽 可發 追 條 神 旣 中 明 則 有 邓 可 心 悸 E 而 煩 心 循

日少陽 和 則愈胃 傷 寒而 不 和 傷寒界言之 則 火貨 त्ता 悸 也 謂 此 小 陽

補言 邪傳 之 來 也 也 頭 痛 鲸 弦 發 熱無汗傷寒之 細少陽之脈也上 部 也 條 灭 兼 見

力を記載

11 国

少版地艺艺

小りになったかい

上一十岁

市賽客云金號 註集 此 故 乾 可 發 風 喻 者 **益** 嚴 揭 愈 讝 不 巨少 傷 也 堂 語 否 印 垯 杰 以 寒 貝リ 미 日 則 發 少 傷 陽 津 汗 陽 2 乾 之 寒 傅 轉 傷 史 脈 頭 2 少 熱結 證故 不 寒 弦 痛 屬胃矣若 發 一陽之大 待言矣 焚發汗少 發熱俱 頭痛 洲 汗 則 打正傷寒論註少陽 故 胃 念 發 知 不 屬 傷風 熱努 其人 傷其津 為 科利 能 那 少 陽 陽 在 和 也 少陽之界 津 於發 之
胸 中 表 也益少陽之病 風 但 惟 液 而 一談語且 滿 禁吐下二 素 此 助其熱必 頭痛 者尚 充胃 rhi 也 MU 煩 更 發 能 似 已屬 熱 烦而 可 自 發 互.舉 為 和 則 則 陽

石室馬中門白金一分一

尚不可吐 邓 欲 入裏 下則傷寒之不 問之津液已為熱耗 可吐下 更不待言矣脈弦 重復發汗而 驅其撑

液 出安得 不善語乎

少陽之邪已 王琥 日談發 其汗讝語者奪其津液而胃乾故言亂也此 轉屬胃胃和則愈者言當用藥以下胃中之

胃熱上犯於心故藏 熱而使之和 平心胃不 神 不自寧也 和不但 嚴語更加 煩擾松悸此言

或 寒五六日中風 胸 中煩而 往 咂 或渴或腹中痛或肠 來寒熱胸脇苦滿默默不欲飲食 下痞

鞭或心

心

順

傷

嘔

便 不利或 不渴身 有微熱或效者小柴胡湯主之

以及 工二條 E一部其 監以明其治地俱寒中原二門目記

印在管管宗全外 註 胸 此 風 頭 來寒熱胸 燙 痛 苦 承 解 蜂目 太陽之表中處於牛 苦滿也少陽 寒兼見俱有之證也少陽之 發熱無汗者則 阳 上三條 來寒熱不 則 乾 作寒內并於裏半 赤 多公丘 目眩之盜與弦 膈 胸 互詳其證以 苦滿 满 定也少 प्राड Th 近 默默 訂正傷寒論就 知 煩 是 者 表年裏之間其 陽 陰 不欲 從 則 御之脈知邪已傳少陽矣若兼 明其治也傷寒中風三四 心陽金篇 故 知是從 傷 寒傳 默 鯳 不 飲 下胸 和 食心煩喜嘔 則 也 來也今五 中風傳來也若兼 作 可傳太陰之裏退 师 熱或表或裏 邪 脇 水 那 外并於表半 邓 47]] 是 故

名字等与五道之之子

室嚴及傳陽明少陽則無皆衛之分且其邪皆化熱故 Th 柴胡應有之證也其餘諸證 主之各隨見證以加減治之可耳然既分中風傷寒之傳 也 故 邪欲入裏裏氣外拒故 不分共治者何也葢以太 不欲飲食也 **邓**在 胸 啊。 脇 陽有管衛之分故 時或有之總空以小柴胡湯 嘔 火無從泄上逼 則木氣舒故喜之也此皆 於心故心煩 風寒之 同

歸一致也

誰成無已日邪在表裏之間謂之半表半裏傷寒中風者是 或 自表傳裏之時邪在表則寒在裏則熱今在半表半 傷寒或中風非傷寒再中風中風 復傷寒也五六

随京有定處故

往來寒熱也那在東心腹不清明有重

第一次 四十八人之 西面 心 自 方傳 間 也 表 不安 腹 貝刂 欲 未 有 食者 之裏在 脹 有 執 滿个言胸 外 也 羽 定 煩 日 在 未 那 不嘔 處 兩 五 天谷丘 裹 至 界之 六 表裏之間 故 初 於必 日 入裏 則 往 邓 隙 內 來 大 在 脇 寒熱 裏 苦 約 煩 地 未 訂正傷寒論。少陽全篇 不 能食 有定 也 所 則 經 满 也 那 也 消 云 亦 煩 處 陽入 故亦 是 滿 丰 往 在 邪 來 所 在表裏之間 表 ातां 表 在 寒熱 华 之陰則靜 ᢔ 爲 表 睡 則 心腹 在 不 烟 能 而喜 食 者 表裏之間 故 羽 羽 有 嘔 浦 默 陽 在 也 或 所 馬昆 裹 羽 默大 邪 邓在 主 世 殻之 山 在 不 在 邓 能 表 泉 邓 पीप Fill

在 季 告 与 全 子 子

寒熱間 陽 位 明 也故 明去太陽遠矣風寒無異 切近太陽營衛之道在 作也太陽 而併於陰則 經 有營 寒出 邇風寒之辨尚嚴少陽 而併 衛之不同所以風寒吳治陽 治經以傷寒中風 於陽則熱出入無常故 五六日 經 越

來寒熱交互為文者發明風 寒至此同歸於一致

也

黄芩三兩 人参三兩

胡华

觔

小

柴胡

湯

甘草、炙一兩

半

升

生 蓝河三兩

七味以水一斗二升煮取六升去澤再煎取三升

7 11 11

加減法

胸 中 煩 而 不嘔去 半 夏 人參 加 括 菱質 枚

渴 去 半 夏 加 人參 合 前 成 四 网 华 括 葉根 24 网

若 腹中痛 脇 痞 鞭 哲 去 上去黄芩 大 棗 加 加 生生 芍 藥 蠣 四 兩 啊

心下 个季 小 便 不 利 者 去黄芩 加 茯 苓四 内小

欬 者 渴 去 外 有 參 微 、熱者 大 赛 去 生 蓝 參加 加 五味子华 柱 枝 团矿 升 乾薑 流 服 微 内 汗 愈

豆傷寒聽暖煮

解方

邓

傳太

陽力

以為

明

汗

念語

经红

襄之太陰正氣一虚在經之少陽邪氣乘之故以養聚 參 處無過病者喜其藥味不和殊不知因循誤人實為不淺 俗不審邪之所據果在半表半裏之間與所以應否和 胡解少陽在經之表寒黃本解少陽在府之裏熱稻恐 之室及陰陽疑似之辨總以小柴胡爲於劑醫家幸其 下三法皆在所禁以其邪在半衰半裏而角於軀殼之內 故凡治病者當識其未然圖機於早也 和中面預比裏氣使裏不受邪而和還表以作解也 在兩界之間各無進退而相持故立和解 在半表者是容邪為 病也在半裏者是主氣受病也邪 法 旣以柴 在 世 解

罪程院院国方以小果問名者取

了是学院 集 盡之矣方中以 程 補 火 者 通 也 氣 應施 達營衛 肠下痞 被入 燥已 之旨及加減 使半裏之 内 PIE. 者火 虚 といい 百方以 助生 土 中 液 鞕 相 氣 一發之氣 **於原實逼** 邓 胃陽 者 通 須 柴 小柴 相濟 肺 得 法 羽飞 從 朗 則 也 旣 受 內 所 胸 使 甘 疏 胡 訂正 故 困 留 草佐 名者 去 也 训 徹 木 傷寒論計少陽全篇 貝リ 故 半夏豁 便 去黄芩以安土 故 不 木 华 柴本調 焦 収 半 氣 去 夏 至 内向 得 哑 實故 表 加 痰飲降 參半 之 通 平少陽之義也至於 栝隻根也 一邪得 和內外 **津液** Mij 去大棗之甘 夏加 外一 一加芍藥 從 角华 襄 得 也至若 気気之遊 下胃氣 一腹中 蓝 外宜黄芩清 括 妻質 聚 佐參 痛 以 批 也 烟i 者 团 而 利 411

他 **复题与全组**一卷王

寒尚滯 黃本之苦寒加茯苓之淡渗也不渦身有微熱者年表之 牡 蠣之 南岐 於肌故去人參 而與也心下悸小便不利者水邪侵乎心故 加 柱枝以解之也然者牛表之寒 去

肺寒不减黃本恐乾薑 入於 熱鬱而不升故以小柴的治之所謂升降浮沉 朋市 故去參棗加五 朋 熱也總之邪在少陽是牛 味子易生 **喜為乾藍以溫之雖** 川百

之也

傷 寒中風有柴胡證但 見一訟便是不必悉具 傅少陽病

मंग

風

邓

在.

华表华宴

記此承上而言無論傷寒 胡怒但見 證便以 小柴胡隨器加减治之不必待

子心上六七

柴

註集 方 有 黏 曰 此 承 上 條 敦车 認 少。 陽 經 為病之大 旨

寒 鄭 李先 重 是 光 柴胡 目 有 證 柴 此 胡 外 證 兼 但 見 見 胸 脇 證 满 便 鞭 是 الله 不必 順喜 悉具者言 川語 汉 治 往 पा 亦

有 因 柴胡 證 者 第 刨 赴 相區 半 核 之 表 劑 华 裏 風 寒 故 不 日 全 哪 在 而 表 發 热 未 介入 老 1) 裏 胡

PI 故 督 人 審 不、 儿》 省 如 愁 其 朋 下 而 满 方 痛 有 水 加 派认 渴 法 1111 也至若 飲 水 四原 柴 老 柴 胡 胡 有 统 中 似.

以下上 訂正傷寒論註少陽金篇

1:11

優處打了

吃品

朗

也

及

但

欲

阿显

胸

1-13

捅

微

溏

老

亦

非

柴

胡

部

此

等

又

当

細

羽车

也

證

可

il L

湖主之 傷寒三 傷寒四 徐 節寒核 話 を少り下たっ 計集 7. 程應族日 盛 張 欲傳今飯 寒川五 日少 Ħ. 陽陽明證也 錫駒日三日乃 日身 H 陽 挑惡風 E 風 建建 倾底 觚灰 小者 小為 邪 1) > 而言 別部 在 則 欲已 也其那三日少陽受之脈若 邪衰欲 示滿 少 三陽之時身熱惡風太陽 陽得陰以和是 到 填强脇 陽 主 也 手足 気之 自己 温而為陽 下满手足 期 41 不盡退 加瓜 小人 沿沿 明 而陽 ツツ陽 而 浙 其治然其 證也頸 JE 退 大者為 來復 認 也 也 矣 柴 此 琐 邪 引展 胡

陽

合病之

始

固

當

權

其轨

緩

轨急以

加

作手見是不清是已成去或人家原作与人人

卸 李卷 完全點 註集 方有 陽 陽 從 罷 則 加 瑜 一善備 昌日本 陽明之邪 合病 渴 少陽以爲治也主以小柴胡湯者 而 重 滿 增其熱 陰 是外 染化 手足 也 不必悉具柴胡 目 當從三陽合 邪 沿沿 既实丘 逼凑於少 陽 傷 itij 微 而渴是已露去丧入襄歸併步陽之機 少陽近 俱見病 大 耗其津矣故 果 而 訂正傷寒論註公陽全衛 併病 陽 兩 裏而 部 而 獨從 得 向裏之機已著 而 之例 裏證 常 也 小柴 少場 從 用柴胡之 見故 小 नाग 柴餅之 月表 胡湯當從 小柴 和解其表 從 更用 法 in -沙 初 但 多一 以 和法 法 魚治 手 平 也 使陽 减 甘 足 於 也 溫 经 赤山 此 故 邪 散 MI Kij

陽明病發潮 不全方段下与 陽 强 寒已至四五 氵王 張 吨品 道 明病 號 志聰曰 那漸衰也其兼 兼 按之而得也 ITII 自此 itt 渴者 白生 足溫 陽明之 熱大便溏小 發 俗係 手 湖熱當 而 日之時不 足 三陽 邪亦將哀 溫 夏 文 不 者手足 渴 然 加 陽 大 此為 明部 栝襲根 經濟病 何以 便 便製小便數 门 E 也惟脇 發热思 不冷也 既日身熱 可 邪 胸 為是 將傳裏之機 而少陽之邪居 日鼻乾不得趴 脇滿不去者 非 丁満 也今大便溏小便 風祗日身熱者 病 而復 爲 自覺其溫 1 15 E 手足溫 著也 陽經之 Thi 少人 與小 也太陽 所氏 此 E 即 胡湯 專 頸 陽 傷 常 認

美馬所入户之言若可知矣沒有此即言不去之少以

非 乎 故 陽明八府之潮 不從陽明治 而 熱 從少陽與小柴胡湯主之也 可 知矣况有胸肠消不去之少陽證

集王肯堂目 陽 明 為 炳 胃家實也今便塘而言陽明病

陽明外證身熱汗出 不惡寒反惡熱也

應旄 日如得 陽 明病 ाता 發潮熱似乎胃實之微矣但

之熱 也再以胸 便鞭而 脇 徴之 便數今大便溏小便自 則主以小柴胡湯無疑矣

實

必

大

1

可是熱非

病 學 脇 液得下胃氣 10 便而呢 因 和身溅然汗 舌 Ŀ 出 省 rfn 可與 解 小柴胡

湯

中美受过完人 温 人民工 陽明病 便脇 下 **首正傷寒論註傷全篇** 滿而驅是陽明傳少 陽病也若舌

位多 記集程 俾上焦得通則嘔 胃未實卽使不大 **今** 占 上 自 胎 滑 者 是 滿除則身於職 黃胎濟者為陽 知日此言陽明 便 可止 明之熱未盡則當與大柴胡 兼少陽空用小柴胡也不但大便 而嘔 已傳少陽故 汙出而解矣 津液得下則便 陽之見證多故當從小柴胡 亦為邪未入裏與尚在 可與 可 小柴胡湯 通胃氣 湯 因 和 兩 朋 溏 和 解 解 丽 而

110 見於許舌上氣傷而煩似飲外數形皆妻女 非 胡旭 者 以 舌 白 胎循帶表寒故也若胎不

解

陰陽則上下通

和

濈

然行出而表裏之邪為之一

敝矣

腹

舌胎白而不

黄皆少

應族曰脇下鞭

滿

大

便而順是大柴前份證也其時

This 即全然看巨公弘 柴胡湯 振 集 服舌 方有執日杰蒸而振作 此 却 用川 柴胡揚病證不 發熱汗出 上見此條陽明 湯 所謂舌上乾 病 ·胎與嘔言胃 而 者可復與柴 不 執振振而 可主矣又曰上焦得通照脇下鞭滿言津 證而下之若柴胡證 多多工 而 角平 燥 寒邪 與柴胡湯而反下之不變他病柴 病 胡湯 氣 而 從不 煩欲 訂正你寒論註少陽全篇 因 戢 和 正交争然後 則 汗 解平 照不大便言上 飲水數升謂裏熱已和及外後 也必 便上見 不能者復與柴胡湯必蒸蒸 但以誤下其 如此 汙 而後解者以 修場明病 認 而 必虚故 解 也 液 胡 後 鸿月

企協校也 分份

知曰邪氣還表 放蒸蒸而熱下後正虚故振振而 食 動

而

脇 得病六七日飯遲浮弱 渴而飲水嘔者柴胡 下满痛 面目及身黃 湯不中與也食穀者 頸頂強小 惡風寒手足溫醫一三下之不能 便難者與柴胡湯後必 戏 重.

食穀者噦四字術 文食穀嘔者有之從無歲者

註得病六七日少陽八太陰之時也**歐**遲太陰<u></u>與也浮弱大 **峽也惡風寒太陽證也手足溫** 太陰證也醫不以 柴胡

桂 滿痛 枝湯解而和之反二三下之表裏兩失矣今不能 雌 似 少 陽 之證而實非少陽也。而目及身發黃太 食 朋筋

は、一直は、直角は、川易用と下たとした東洋的に

りを支持するで、公共山東へ大二九 批集 程知日前言柴胡盜但見一 係數下奪津之渴其飲水卽嘔 柴胡湯則後必下重是使邪更進於太陰也雖有渴證 病若更以有少陽肠下滿痛之一證不必悉具而又誤 陰之證已具也頸項强則陽明之邪未已也小便難者數 未經數下自能消水令本渴而飲水則嘔知其渴為膈 程應旋口以一 下奪津之候也此皆由醫之誤下以致表裏雜樣陰陽 下所致效柴胡湯不中與也 不宏柴胡者以為戒也 一渴證辨之前條之手足溫而渴者熱在裏 訂正傷寒論武少陽全篇 **監便是此更言勝下滿** 亦非少陽本路之服絲誤 痛亦 THE 火菜 Fil

在 多四二 公出 关于

津人之渴數下中處不能消水究於胃陽無涉然則柴胡 湯之於少陽豈可云但見一器便是乎又豈可云下之而

傷寒六七日發熱微惡寒支節煩疼微嘔心下支結外證未去 胡怒不能者復以柴胡陽乎

者柴胡桂枝湯主之 祖本川山

司傷寒六七日發熱微惡寒支節順疼微嘔心下支結者是 太陽之邪傳少陽也故取桂枝之半以散太陽水盡之邪

取柴胡之半以散少陽嘔結之病而不名桂枝柴胡湯者 以太陽外證雖未去而病機已見於少陽裏也故以柴胡 冠桂枝之上意在解少陽為主西散太門為族也支者問

たったがりいるいいたい。

りを合作なる此、知に 註集 胡 方有執 熱 也 末屯 Hil 煩 陽此不易 至 小也支結者卽心下側之小 木支 太陽器亦 此 於心下之偏旁而不 疼太陽證也乃 矢口 微 陽 此 惟當以柴 日支 唱 之法 大 羽 八陽之表 稍減矣過 入少陽 節四支骨節也支治言支飲搏 也 惡寒而微但 朗湯 訂正傳案論註少陽全衛 也 而太陽證 結於 放 而支結 和 目外 角配 两 光光去 陽而 少 未去者也發熱惡寒支 支 脇 粘 陽證也乃 之間則少陽亦尚淺 質的 也 煩新而不頭頂弧 加以柱枝 山山 爬 聚而給也 湯發散 遊 计 有效 有到

芍爽一两半 柴胡四 村此 解集 柯琴曰仲景壽中最重柴柱二方以 2 壞病柴胡亦 可 九床以水七升煮取三升去率溫 任重不拘於經也如陽浮陰弱條是仰景自為桂枝證 华表故於六經病外獨有柱枝 以調諸經之肌表小柴胡解 註釋血弱 兩 兩 氣盡係是仲景自 有壞病桂枝有疑 半夏二合半 大棗學大 兩 半 為柴切孫之註釋桂枝 117 似路柴胡亦 黄芩 生產 的年表亦可以和三陽 證柴胡證之稱見二方 服一升 桂枝解太陽 兩 啊 兩 华 华 有疑似 肌表

7.

华山田小的

后便皆及底则张凡·京本四

りまえていたいいいいい 裏證表裏不 寒熱常退之時 於 飲 故謂之支結是表 可知支節煩疼則一 兆 水 柱 雖未 微結之證日 取桂枝之半以 枝證脚學急與胸 嘔與但欲 解 解法當表裏雙解之矣然惡寒微則發熱 m 正已虚 胡冠 反 見發熱思寒諸表證更以心下支結諸 凹區 不 胸 世 證 訂正傷寒論註少思 桂 冯 身骨節不疼可知 中痛 枝 太陽未盡之邪取柴胡之华以 雌 身 故 中病 乏上為雙 仍 有 不 去而已 者是 微 用之 熱者法當去人 **鞭者及病** 已此 列 輕裏證雖已見 證錐 解 修言傷寒六 兩陽之輕 似柴 微嘔心下亦 在而病機 参以 胡 Thi 本 也 解 亦

主之 傷寒五六日已發汗而復下之胸脇滿微結小便不利渴 在 叩區 頭汗出往來寒熱心煩者此為未解也柴胡桂枝乾薑湯 而 陽

裏故合的肠滿微結也小 傷寒五六日已發共汗表未解而復下之若邪陷 故 之裏則必作結胸痞鞕協熱下利等盜今邪陷入少 乃汗下损其 津液也論中有身無汗獨頭汗出發熱 便 不利渴而 不嘔 者非停水之

惡寒心煩者乃陽明表熱鑿而不得外越之頭汗也

今但

頭

汗出往來寒熱心煩

者無陽明證知為少陽表熱鬱而

トーナストと言語はのリイトディートと ヒスターリード・ナスト するソートにいい 不和上然之頭汗也此為少陽表裏未解之器故主柴

桂 枝 乾薑湯以專解华表之邪兼故牛裏之結也

集 林瀾曰五六日已經汗下之後 則邪當解今胸肠滿微結

寒熱心煩者是邪 汗下後山津 液 内 摘 燥 在 华 也若有熱飲其人必嘔今渴 表牛裏之間也小便不利而 而

吧 液 知非 不足而未和 飲熱也傷寒汗出 也 與柴 的桂枝乾蓝湯以 則 和今但 頭汗出餘處無汗 解表裏而復

液 也

汪 洗 日傷寒頭汗山 者乃陽戀於表非陽虛於上也

印象管民人出 觔 桂枝三兩 兴

初桂枝

、乾薑湯

乾莲

耐

訂正傷寒論建少陽全篇

廿草二兩 栝糞根 解註 少陽表裏未解故以柴胡桂枝合劑而主之即小柴 之變法也去人參者 恐助燥也加栝蔓根以其能止渦兼生津液也倍柴胡 不 枝以主少陽之表加壮 散往來之寒黃本佐柴胡以除往來之熱且可制乾蓝 益心煩也諸斃疾温不 升日三股初服微煩復服汗 七味以水一斗二升煮取六升去浑再煎取三升温 四 耐 黄芩三兩 因其正氣不虛減半夏者以其不 蠣 必需甘草以和 以更少陽之結乾蓋佐 出 批 便 愈 朝. ifj 之初服 微質 胡湯 桂 服 川品 7111

1

しし、夏山以

T

出一个一种

此過其中由不然也

事をなるといろの前 註集 風 胡 in 鄭 治 陽 重 未 宗 K 少陽 也為 羽 揭 及 FJ 服 M Ľ 復 715 沙 削 當随 松石. 柴胡 輔 陽 服 屬 液 HE 根 屬 自 明 陽 汗 也 This 出 期以 湯 泅 規 虎 陽 而 陽 則 傳 刨 柴 E 調 明月 PJ 明 訂:傷寒論莊少陽全篇 間間 法 沿 胡 少 愈 现 也 孙 如 治 湯已 辽法 被 易 者 部。 外 可 11: 起 之 11:1 11. 從 知 屬 治 13 初 Phi. 始 北京 陽之邪 陽 之 此 MI 湯 不 故 問當 渴 湖以 游与 證非 11)] 今服 世 则 Thi 分 非 HI 分 法 揭 不 則 治 傳 啊 出 树 **秦**亚 轉 77 陰 府 湯 角星 业 MI 儿 越

陽 傷 伯多英臣 出 外 衇 寒 也 柳 九 假令純陰給 知 觚 血灰 元 版 惟 元 次 惟 子 可 听 知 非 選挙 此 府 鹹 1 當是 耗 The. 為陽微結 日 也 雛. 除也 The state of 緊 用忆 在 组 頭 沉 不得 少陽 消 繁 汗 衇 出 胡 水 之際 不 近 FJ 得 與 微 此 如 爲 心 細 有 梭 属 恶 闸 小 学 觀 小 表複有 寒手足 常 陽 多 柴 陰病所以然者陰 省 有 水 胡湯 明門 Jt. 難 外一 是 條 期用 井 有 於 下 組 病 用设 冷心 陽 襄 設 悉 文 字 处是 柴胡 也 11)} 也 木 邮 不 在. 了了者 部 衇 1 條 沈 傅鬼之人 锡 裏此 减 不 流 上文 亦 E 可 在 不 亦 口 攻 得屎而 得有 加口 不 裏也 爲 並無緊字 AE. 渴 2 欲 聚 4. 者是 食 因 在 也 汗 病 汗 大 裏 角星 便 出 頭 離 部班 自

即 註 変をなすいい 傷 陽 矣 說 衇 寒 夫 則 忧 邪 衇 通 被 身 約 旣 所 H. 雖 不 細 **全班** 汗 非 得 結 沉 也 似 複 日 欲 緊 故 乎. 殊 悉 111 頭 聚 総匠 峽 八 微 食 雌学 有 T 雖 雕 頭 陰 在 也 出 恶 表 汝 战 果 汗 感 便 有 何 沉 訂正傷寒 也 知 細 出 鞭 日 頭 Wij 所 之 設 非 純 此 汗 不 頭 之 謂 外一 論於陽 得 陽 少 陰 汗 爲 出 刑川 了了 結 溢 出 陽 結 除 為 微 必 是傳寫之 惡寒之 彼 已形 也 小 此 始 则 除 結 FI 必 爲 心 病 為 悉 表 心心 但 與 打 所 入 手 陽 牛 防禁也侵 大 小 在 沙沙 表 足 ル 便 柴 在 然省 泉之 未能 復 冷錄 4)] 東 2 打 湯 岸延 华 聚 丧 純 合 沙心 未 陰 陰 除 純 心 有 細 圳

彩 集 程應 似陰並 程 陰結及陽邪若 等語其義 泉之證矣果 被 响 那氣 鬱 知 利 旄 E 結之診無問少於 国陽 其 此言少陽 目凡 陽 松言 大便使得屎 创 脈亦 聚 微 甚 大差 衇 结 III 爾 網 水 不 似 則 陰矣 被 KH 嫉 将 陰結又是陰氣衰 果 結是純陰邪內結則不得復有外 爾 羽 1/11 沉 有了 片陰 微結末 也 則 解 似 頭汗出 少陰者當 也 可見陽氣 城 恭 也今與陽 繑 散也舊註作陽氣聚微 称 **丛陽之證非半表学** 約田 辨其脈 矣 經營結不但 證同見 玩 本文假 諮 則 也 爲 陽

九川宗司易录而程識用大柴期之法也

JI 午かとうべい 少 陰 葉隹 沈 爲 吳 楊俊 明宗日 因其 辨 2 陽 肠 故 包无 得 断 ス 定監 公三五 心惡寒 多 顾底 有 病 仲 取 日 目 景特出 此 不 小 則 汗 此 7. 不 此仲 得為 柴 得 也 條惡 手 屎 證皆見有誤 胡提 純 足冷 至 ifij 景所以 少陰之 寒肢冷 以表薬汗之外 陽 Ŧ. 解當用大柴胡之法 出其 六 微結三字昭示千古以 訂正傷寒論話少陽全篇 衇 日 細 之 病然獨 那 作陰寒 頭 又 而沉不究 不欲食飯 明言半在表半 於表裏之半 痛 發熱心 證心 未 而 見少 其證之始 利田 施 或沉 温熱以 陰 原局陽也故 也 此 圆 不 得復以 頭汗出 有 在 裹也 末山 便 致 似 大逆 弹矩 乎. 何 **寒**藥 爾時 亦

えるので、ハイエースコ

了者則當下之得屎 無疑也仲景恐人未 明 ÉI

知手足冷微惡寒者正因陽 邪鬱結不外通於肢

獨頭汗出也

傷寒陽 與小柴胡湯主 鹹 海陰 之 · 鹹弦法當腹中急痛者先與小建中湯不差者

計傷寒脈得浮潛營衛不足也蘇得沉弦木入土中也營衛 則表虚木入土中 則裏急惟表虛裏急腹中急痛 所

以先用小建中湯以其能補營衙兼緩中急則 不差必邪尚滯於表 知濟為營衛不通站為少 痛 可差 向反 世

故與小柴胡湯按法施

治也成無已去黃本加芍藥

亦

問中土、允木量

註集 汪 司問 F 写左 記 亦 剑底 除 痛 稻 未 IL 者 為 不差此 少陽 糸亚 有 韶

傷 寒胸 傷寒 其 有 中 寒 有 降 未 邪 之常 熱胃中 内 角军 攻 欲 也此 故 甲區 有 用 叶 黄連湯 熱 者 邪 邪]胸 氣 中 腹 在 寒溫 中痛 有 胸 寒 熱 耳. 邪 欲 邪上逆也腹 用 在 吧 甘苦並 円 陰 陽 之 吐者黃連 中 施 氣 痛 以 湯 主 調 理

中

陰

书 们 內 和 角罕 因 اتنا 之地 雜 MI 情異 病 然 門區 此 吐 概 可 而 屬 腹 外 矣 痛 因 上 者多因宿 下 寒 热之 食 邪 此 故 推 有 如 因

於監 新工傷寒頭張馬

在於なけれる

对

言答

陽

黄連湯方 黃連三兩 人参二兩 大聚十二枚 集程知曰陰邪 失其上下升降之常也 鄭重光日此 則陰不得八而和陽 汪號日尚論篇皆以 初來未必非寒寒之既入亦能化熱不 在腹則陽不得入而和陰為腹痛陽邪在上 熱邪中於上焦寒邪中於下焦陰陽不 甘草实雨 桂枝三兩 為欲嘔 風寒二邪分陰陽寒熱殊不知風之 逆 乾鹽三兩 半夏淮升 可 拘 地 相人

しっとまり、

1 2月以上八件大大车四回眼里二二成一

部 が然野かられ いい へんこん 解傷寒邪氣入裏因 蓝以溫胃中之寒半夏降逆佐黃連喔 寒丹田有熱化者也此 湯寒溫不一 中痛欲嘔吐故以是方主之君黃連以清胃中之熱臣乾 相格寒熱並施之治法 之裏虛懊慢舌上 **製滿不大便而嘔** 右七味以水一斗煮取六升去滓溫服畫三夜一 乾薑腹痛可 甘 苦 除 如胎者以梔子鼓湯之類是隨胸 並 桂枝所以安外大 舌上自胎者以小柴胡湯及太陽病 人藏氣素有之寒熱而化病如陽 訂正傷寒論註以陽全篇 投收必加廿草粉 也 則隨胃中有寒朐中有熱而化 飛 所以培中也然此 H 和諸藥此爲陰 行 可止人參補 明 陽 腹 病

與小柴 大陽病 集王肯堂 法大陽病十日以 等
監則
仍是太陽
之外 陰 陰歐也峰浮納身 小柴胡湯和之若飯 須藥也設有胸 也蘇緩 小胡易贩 ·日以 曰此條當 過程浮者 去、峽洋 船 身 滿 和 一無他證或浮細而皆臥者外邪已解 與麻 熱階臥者陽也脈沉 少陽飯也飯改 身和嗜队者已解也是皆不可不察也 是太陽少陽合病胸滿難同而 肠痛等認 細 但浮不細而有頭痛發熱惡寒 而 青湯 邪未解當與麻黃湯 皆队者外已解也設胸滿肠痛者 則知少陽之外邪 組少陽脈也脈沉細少 細身無热情臥 汀之 未解故 脈件 無汗 網 者 明

とコート になったい コールドながら用るり 見が自己なれい 火棚につれ

中できないんかけんでして 傷寒發熱汗出不解心中痞鞕嘔吐而下利者大柴胡湯主之 註傷寒發熱汗出不解表尚未已也心中痞鞕大便不利,果 女下利之下字當是不字若是下字豈有上吐下利 中 攻 之言非爲服柴胡而鹹浮也 階队則為表邪已解肠痛為少陽有邪故與小柴則湯者 衇 熱結成唇故以大柴胡湯外解少陽發熱未盡之表內 陽明成實病襲之襲也 又急矣嘔吐少陽陽明兼有之證也少陽陽明兩 胡易下之之理乎 但浮者又當先治太陽也故與麻黃湯此是設為變通 訂正傷寒語比門全篇 E 急心

湯下之則愈 與小柴胡湯嘔不止心下急鬱鬱微煩者為未解也與大柴胡 大場病過經十餘日反二三下之後四五日柴胡盜仍在者先 註太陽病傳過三陽之經十餘日醫不览經施治反二三下 胡湯證 太陽病發熱打出不解心下落襲下利不嘔吐者此表裏 俱虛桂枝人參易器也若嘔吐不利者此表果俱實大柴 之未致變逆後四五日惟見少陽寒熱往來之柴胡證仍 者公先與小柴胡湯解表和裏如或不愈其嘔不止心 滿急鬱鬱微煩此為少陽表裏均未解也與大柴胡湯 也被則歐微弱此則脈必有力也

下之攻裏押表自可配也

之攻襄和表自 可愈也

註集 執 日過經與壞病 同 4口 何逆而二三下之適所以

致逆故曰反也下 柴胡證 仍在也 叩區 而 又下陽 不止 鬱鬱微煩 明 雖未傷而少陽亦 乃邪擾二 未 除該

解 也

Lucion 程 那 团 日此言過經 慶下 而深入若表 誤 下有 認 用 大小柴 未 龍 必先 胡刚 用 小 解法也蠢其 柴胡

後 FI 兼改其 裏也

程

應

細

細

りているまでくとかれば、そにし 旄 的量陽明證 目此 條 與、 陽明 門區 訂正傷寒 在上 經 嘔 論正少陽多桶 而 邪 多雖有陽 亦 在膈 明 經不可下之條

在等監持在個一卷日 大柴削湯方 五河五河 华列半角 为美三州 中有燥屎也非下除之不可故以大柴胡辣而行之 林 右八味以水一斗二升煮取六升去浑再煎温服一 也 三服 可 瀾目嘔不止則半表裏證循在然心下急鬱鬱微煩必 可下不可下此等處最不容談也 下此條嘔不止心下急乃邪在膈之下已屬胃乃可下 **黄芩三兩** 大東十二枚 枳實四枚 毕 大黄二兩 华夏洪升 where the state of 升日

。許叔人巨大柴胡陽一方無大萬一方方大真此方用人

清精 即方於及内心不足。此四人公二五 声 陽病過 鬱鬱微 與但 按 解方 黄 柴 1) 枳實坊藥者 加 胡 水 者以大黄 證 黃將何以下 四節 大 用大黄恐 微日大柴胡陽一方 經 烟 在 黃所以寫 那 中痛 此時 餘 又復 有湯 解其 不名 自 心心 有 統執也 溏者 1-1-1 心 極 **修薀熱之功為傷寒中要薬王** 列· 裹 吐 放放立 温 り 訂正傷寒論時、陽今衛 下之急乎應從叔 ナ 柴 此 和 下 沼品 非柴 倍生莊 欲 其內也去參草 少 無大黃一方有大黃此方用人 胡湯且經文 與調 陽 叶 不 胡 兩 部以 目水氣 省山 州何 解之法以小柴胡湯 中病大 服故 印品 微 明言下之則 院 湯若 為是 者以裏不 不 止也 东山 便反塘腹 不 柯 吐 耐 虚 愈若 利 机 机 加1

計 按 其裏邪熱乘虛入裏故大便反循腹微滿鬱鬱微 **炉**先時若果經極 見 太陽病過經十餘 爾者謂不因極此 承氣紛矣然此亦 一育堂目溫溫當是溫溫又云以嘔之下當有闕文 熱乘虛八胸故心下盟盟欲吐而胸中 然幅者少陽也 者皆是裏證未和故安 之利也並無心中監監整發腹滿煩熱等證 金 非柴胡從放柴胡湯 胸中痛者太陽也微應者太陽少 極下而有斯證則又不可與是湯也夫 口曾經吐下不解者以 吐 下則為在表之邪熱悉陷胸腹而所 與制門承氣物下而和之若不 亦不可與也 痛 極吐則虛 也 極下則虚 固 傾也詢 其句 陽 須 Ud.

し、目的いりはか

No The Time

日、七丁四四十五十五十八人

1

上了「巨七時田門丁」と

河上を支日三八八世川、大二人 註集 方有熟目 胸 熱 **粳** 也 欲 太陽少陽 文之意 企之狀 以和其 不得 涌 恢 被 太陽病 FI 吐 鴻 也 何 胸 他 先 合 何 腹微 病 此時 也以 也 中 也以胃口 反 溏腹 痛 過 不働言未 經 滿艺赞改煩 自 邪 利 下 F 則胃虚 訂正傷寒論建少哪無何 微 若 在 極 吐 已被吐 湖縣的被 餘日心下 膈 門記 一下者與 条坚 也若给此一吐 者與黃火 極 羽 叶. 傷思熱上搏於膈 雖宮外門大 邪 15 在胃也若骨極 唱 制料 烦 和此 胃水 也 PHI. 加 但 欲 半夏生背湯 川應有心 記 pt. 欲 氣湯言當強 嘔 而 便反不能結 至未 不吐 故 其 TEL. 與小 欲 FI 阴 應 PŁ 咒品 也

着今春路中只有 新 第 天子

未經 吐大下省表邪 極 叶 下伹 從吐 欲 門記 不嘔胸中痛微海者是預非吐 解且已入裏可用調問承氣之法

傷 塘井下所致調胃之法不可用矣

皆在陽經留連若在陰經則又豈能若是之持久 解也豈惟十三日且有二十餘日者矣。益過經不 程 知日週 經 者謂病過七八 日至十三 日經氣已週循 解病 All 人 心

且不能安望其生乎

程應能目大 屬 陽 明證反 微滿攀攀微順必胃有阻留而下後仍不 便應則氣得下沒腹不應恐怕不應鬱鬱 無陽明而祇有少陽其中必有所誤 快暢也病

・丁しんしては、

月二十七丁

ととなるこうかい一切

傷寒十三日不 はんとうから 熱者實也先宏小柴胡湯以解外 胡證下之而不得利今反利者知醫以九藥下之非其治也 此 **允爽迅下之非其治也** 凡傷寒過經不解熱邪轉屬門府者多皆當下之今傷寒 其所以致證之由而後 本大柴胡證也下之 胸脇之邪未已故先 下後之利為虛故復 三日不解過經胸 ~ 大山 といろ」し 解 胸腸滿 訂正傷寒論許少陽全篇 脇満 rfri 指目 弦小 迅下 一一不 幅月崩 可從證上認 Im 柴胡 潮熱 則 通 胂 利 所發 水 月晡 後以柴胡加西消湯主 湯以解 今 者質也是 雖 去而媒 所發潮熱已而被 反利者詢 潮熱已而微利此 少 陽之 可 者仍存恐路 乐印 為野以 也

市多型与丘堡、全土 註集 以取利也 **岩再月大黃下之則胂氣傷而成壞證矣祗用达消潤燥** 大きは 原其壞由於醫之誤以下至未救談之治也 方有就日十三日過經也不解壞證也非其治也以上乃 內臺方議目潮熱者實也何不用大柴胡大小承氣下之 小柴胡揚加达消以下少陽之裏不用大黃而加达消者 却用达消何也益納熟雖屬實然已先用光藥傷動藏府 因憂不急且經過下惟欲其與堅潤燥耳是又下中兼和

柴胡加达消湯方

上記が開めたりりからいいのかが、

事を行うできい 寒十 於 小柴胡 自 藏語者以 此 示利 便當顿 表泉省大 知為醫以 承 小 上 日 者非當做 湯方內 條 便 不 解過 而反 利 有熱也當以湯藥 互發其義以 九藥下 者大 便 加达 下利 經 不 鞭此 厥今反 誠 便當 訂正傷寒論此少陽 一消六兩 之之利 語者以 衇 詳其 條讝 軭 調 今 和 和 非 下其熟 有熱 治 雷 餘 其 依前法 此 便 也傷寒十三日 知器以九獎下之非其 熱熱歸胃府法當 治 為 不 也情以湯下之若 内質也 趣画 也 相 如 川色 條 反 E 不多形以外 潮 調門承氣湯 1 熱之熱 利 九 鲍 解過 3 何

陰不受邪也 伯 寒三日三陽為盡三陰當受邪其人反能食而不嘔此為三 全為四十分分倒 註傷寒之邪一日太陽受之二日陽明受之三日少陽受之 自 仍當下其熱故以調胃承氣湯主之 H 第 能食而嘔今反能食而不鳴者此為裏和三陰不 日太陰受之五日少陰受之六日厥陰受之此傳經之 厥此 也今傷寒三月三陽表邪為盡三陰當受邪其人當 利 者則為內虛內虛之利級當徵弱而 為內置有熱非 是一是 内 牖 有寒也雖下利乃熱利也 厥 今反 和 而

其成 m 2 口上以 即 前 京京教 和 則 不能会是而 距 今 及 能 沒 面

也

然此乃內經以其大概而言究不可以

日數

拘

也

傷寒六 即意是月次 **盐成無已** 註 P 氣 汪 傳三 有執 嘔 琥 之 日那 和 不受邪 会性をおこ 陰斷 無大熱其人躁煩者 也 而少 此 表 在 陽之邪 1 那 衡 傳陰 為陽去入 以 可 那 陽原喔 傳事要 欲 可必 表言 知 入裏之 矣 111 故 陰以裏言能食不仰裏氣 自 在 陰地 云三陰 解 陽 不 時 一年 湯の ころいろ 論二少陽全篇 能 世 也 和 裏眺 也 此 陽 食 則 X STATE 不受邪 今及能 ANE 爲 不能 陽 大 和 去人 MI 食 者謂陽 135 食而不 也 而幄今反 陰故也 熱微 后 陽之 也 那 州區 和 躁 胸 12] 1111 則 煩

月匈 竹金田河在金 人中風 順為之 註成無已日內熱為煩謂心中態煩集 內 方 果傳於三陰也 治 躁 有執 則煩 也內熱為有根之火故但 外熱為無根之火故但躁不 考定 如結胸狀嚴語者此為熱人血室也當刺期 熱惡寒經水適 뷇 日去往也言表那去而入於裏所以外無他熱 址 來得之七八日熱除而城建身凉 頻 煩 不 燥 及先躁後煩者皆不 也外熱為燥謂 及先灯後躁者皆 身外 隨 熱 p ful

一一八八五又上十二日からとこくこりていたすでに

1

-

1

3

変を送りつい 註集 計 當 胸 所 婧 刺 解 血 室 网 中 有 刺 期 解 中 裏乃 是 傍 ifi 血 執 門 期 1 是加 經 風 隨 岩 海 散 中月 1 復 故 Wi. 是 其 表 期 水 發 S 熟 室 同 也 血血 適 熱 門 邪 見 1 寫 身 其 寫 之 那匈 來 恶 档 十 丽 衇 馬 熱 得 寒 肝 ar or 病 熱 之穴 起 顺 1 因 停留 作 於 满 病 而 經 7 其 氣 准 世 水 肝 如 玉 證 之 適 若 衝 1 爲 結 日 其引 並 所 也 藏 胸 後 來 水 مرار 加 肝 華 M. 峽 乘 狀 議語之 险。 是 M. 之 遲 不 虓 集會之 所今 也 熟 Mi 遊 无 期 熱沙 除 門 夾 邓 身源 於 證 消費 處 TIL 新 則 刨 血 堂 34.6 室 在 非 也

和金馬 ML 室 計 汪 中 期 其 FH 胸 有 門 法 m 風 誠 1 所 नं 加 THE STATE OF THE S 必 ナ 語等 乃 紙之 羽飞 想 以 明 室 糸古 風 寫 鴻 傳 B X 故 證 加 那 1 員 ML 使 與 八 在 部 為 1 得 熱 排 少 日 Z 寒熱 熱 蛇 續 陽 結 瘧 捕 用三 實 得 狀 4 其 而 Mr. 爱 寒 發 未 Mil 承 益 ME 也 質 蒸汽 必 作 华 故 氣 有 發 有 也 眸 W. 時 倘 也 伐 有 小 終 有 雕 被 語 4.4 11.1K प्रमु 柴 胃 水 tr. 11X 113 適 胡 涯 祭 小 1/11 湯 斷 狀 柴 無 水 主 者 適 胡 7 胸 出 此 湯 **倒**f 肠 恋 满 熱 此 發 誤

化十

裏熱自解也

註集 此 有執 適 斷 者熱 目前 乘 經 iil 水 來 適 Mo 來 遂入 者 因 之 熱 與 入 後血 ıfıl. 至 机 MIL 排 ifij 俱

故日其血必結也

程 用 刺 知 以 日前 瀉 之此 證 經 部。 水 來 因 血 rh 治台 胂 協滿結嚴語是邪 闹 寒熱 如 瘧 是邪 實 發 於 滅 世 世 故

用小柴胡湯和之

血第 寒 發 無 熱 犯 郊 胃 水 氣 適 及 來 上二焦 畫 H 明 必自 則嚴語 愈 如 見

鬼

狀

此

為

H

芝

五

前正

條

發

明

風

邪

熱

人

血室

婦

傷

此條發明寒邪熱入血

註集 A. 裁則 那 室之證婦 亂 TO 林 方 10 之意 有執 陰也 熱 瀾 俱 三法皆 乘虚 日傷寒發熱者寒已成 出 明 一角 日必自 無犯 T 八於血 知 不。 傷寒 力 胃氣氣 鄂 P 輕 愈 者言俟 用當侯 在. 發熱無汗 室若畫日識 及上二焦者通 紅汗故自 陽也暮 其經 其 則識 熱也 愈 經行 經 水 行 語為邪客於府 也 經水邁 謂三焦也益禁人 MI. 必 語如見鬼 適 **燕警人**勿妄 熱隨血去 來則必熱 則 邪 來則血室空虚 张者是為 熱 而愈 與陽爭 攻以致變 血室故 世 那 MIL

此

畫

月明

則

嚴

蓝

如

見鬼

此者是那

府

thi

されてはいるでする

しまりない思報でいるといしていているというという

往 即生在交替之人 M 漏 來 弱 寒 此 氣 以 就 執 結 加 III. 使 热 室 盡 悉 犯 用何 血結 申 à. 除 留 順區 休 腠 其 與 者 玩上 101 上 也 作有 中 町 陰 理 結 in 寒熱 病 開 焦 爭 愈 刺 條 也 矣 Th 時 邪 世 可 期 氣 下藏 陽盤 基 默 必 PH 與 者 脇府 默 自 因 此 與 發 小柴 中 部 相 愈 不 雖 汗 議 欲 中連 與 者以經 語文 藥犯 多其種的小學 風 熱 痛其 绮 飲 正 胡 氣 m. 寒 136 其 湯 食 下 此 海 減 t. 相 宝. 散 行 此 学、知识 胡 排流 那發汗 水 則引 府· 焦也若熱 tili 不可下者 熱燈 沙寺 通 料 無滿 主 連 來 於 船 巡 MIL 結 Ilt HE 去 美 和 下 犯目統 難 以 必 MI. IF. 加列 热 可 羽 致 肠 m 分 HI 111. 滿 圳 出 另另 爭 圳 如

不全多灰豆 松 膽 世 Tr 也 中 於 條 陰 130 盡腠 小小 切 也 1 循 與 陰則寒故 行公 血血 湯病 一問之界 堂 版 陽 羽 脇 理 急 表 之 陰 中 之 從 已入 以小 那 厥陰 不 求 肝 脷 关王 密那 從胸 故 循 往 治 相 华 來 柴 土 羽的 勝 爲 他 寒熱 為是 赦 胡湯 城 襄 入裏 表 Hin 消 2 下 於 裹 抵 氣 洛使 被 脇 近 也争已必衰衰 襄 脇 مراه 下也那 乘 氣 日藏 厥 腹 因 除故 上 属 胸 循 知 入於 而病 拒 法 脂 府 熙失 IÉ 裹故。 故 相 不 血室邪 無次 相 使 連 外 及 少陽 爭 於 也少 7. 共 則 門底 欲 止 新 脇 痫 也 與 一仲景重 陽之 飲 故 於 不必 心心 故 休 陽 正 食 目 及 於 也少 作 相 則 脈 邓 搏 有 熱 開端 從 H 結 陽 時 争 用譯 新角

一門目可四条当在文見意也一云厘水遊花

云經水過

随着當八公路 连衛目 上二焦皆互文以 重 細 脇 明 作有時一云 云七 以 K 了專則 釋全書思過半矣如 有時一云剌 下一云 E 四條皆互交見意 腹 府 多工 内 讝 相 如 日 連 厥 杜 胸 語 熱 陰 邪 期門 如 胸 除 脇 見鬼 高 訂正協塞論註少陽全篇 明 狀 下 云云 之所主 大 滿 痛 愈派 意 下之語暢 結 狀 云 遲身凉一云七八日續 也 一云邪氣因入 胸 那高 用小柴胡湯一云好 而自為註脚 一云如蹇 狀 也 云經 前 py 痛い一式嚴 1 發新 字 水適來一云經 仲景尚 陽之膽與 狀二 人與正氣 情态血室 也學者試 -云往 恋 語 形 犯 來 得 容 因此 多熱

イクローラとを子子

邪在上藏邪在 下胃口逼處二邪之界所以 默

飲 食而但喜 哪 耳 期門者肝之象也隨其實而為 肝

質也又刺 期門之註 脚也小柴胡湯治少陽之正法

毋 犯胃氣及上二焦則 舍 期門小柴胡湯更無 他法矣

而 發熱者小柴胡湯主之 华衍夏文 夏鴻心湯條上篇 少陽病

時從寅至辰上

寅卯辰木旺之時也經云陽中之少陽通於春氣故少陽

魏務形日病在少陽寒其正正如法治之何病不 之病 每乘氣旺之時而解經氣之復理固然 也

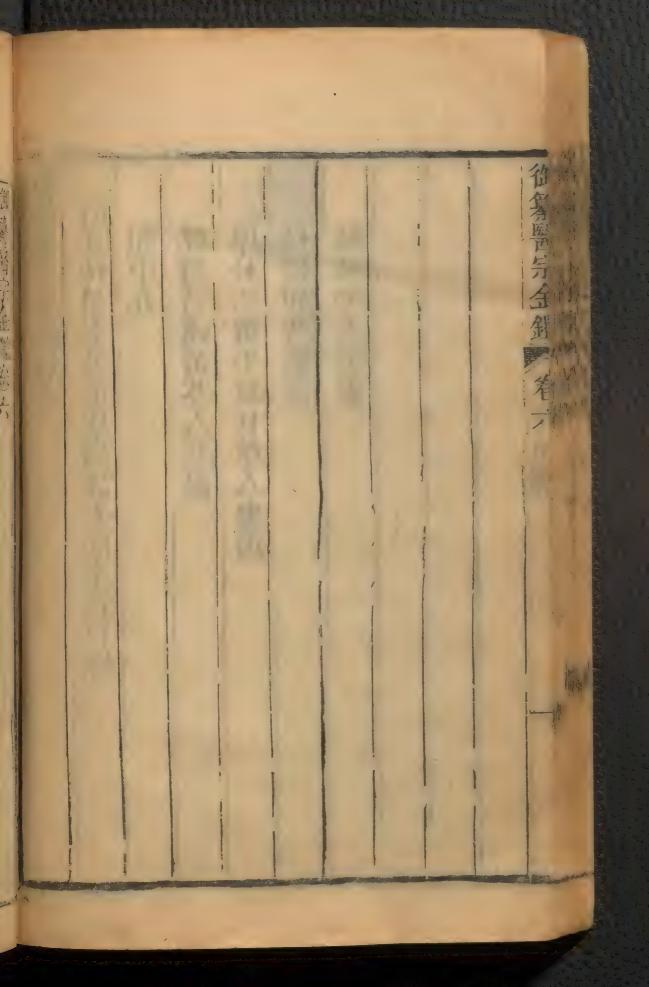
音切

り去ないの言のは四しる月底百次

				少土
				聲音
			and the second s	色温切し
				少去聲音色監切骨奏音奏



10000000000000000000000000000000000000	桂枝加芍藥湯	乾寶病連黃芩人参湯	御纂醫宗金鑑卷六



御纂醫宗金鑑卷六

訂正仲是全等傷寒論註

辨太陰病感逐并治全篇 六氣之邪悠入雖同人受之而生病各異者何也益以人

形有原源氣有盛衰或有寒熱所受之邪每從其人之

氣而化故住病各異也是以或從虛化或從實化或

從 寒 化理 化或從熱化營路水火水盛則火城火盛則水耗 固然也誠知乎此又何疑乎陽邪俱除變寒化熱

用不管等にないい、公正、 傳且以傷寒傳經陰邪 訂正傷寒論註人除全統 謂 為直 中 抑 知直中乃中寒之談

而遂以爲奇叩自

後族迄

今千載以來皆謂三陰寒邪

在有多成門の イが、えい

宏 論 非傳經之邪即是背未付熟讀仲景之書故有此候耳 四逆揚主之此 少陰之寒路也如下利清穀裏寒外熱汗出而厥 化之寒器也如少陰病下 174 111 逆湯攻表室桂枝湯 K 利腹脹滿身體疼痛 少陰寒邪 此二 傳 利白 者先溫其裏乃攻其表溫 厥陰之寒器也皆歷歷可 通湯主之此太陰寒邪傳 陽陽邪傅入太陰邪 者通 從 果 據 如 血瓜

純陰之藏也故病 **慧得謂傷寒陰不相傳無陽從陰化之理乎失太陰濕** 一人太陰則 圳 從陰化者多從陽化者

通安 月辰 理中四 遊盡者 是也 從 陽化者 如 諭 11 發汗

A A A

で 不 川へをはいける

1

從陰化者如

論

中腹滿

吐食自利

不渴手足自溫時腹

いうナーはんできたは、またいとからはなからいとうできた。

太陰之為病腹滿 削 本於之切いに 公然風 でとう 要法 陽明亦有腹滿者以陽明腹 病的首有之然腹滿為太陰主病心下滿為陽明主病 穢府之路也誠能也於腹之時預大質痛腹滿漏處詳 質其的個下則 與 不大便之路而不似太陰與然同化行發情暴煩下 解腹湖須者急下之安大承氣湯腹澗大類沿者宏 が大気易をと看其他 也 而吐食不下自 了無餘義矣故以此 訂正傷號論正太陰 **基牌**與另同旗腹中
政度 利 滿與熟同化放必有 益甚時腹自痛若下之必 括之自知太陰之 湖熱白 利 膜

名意品中に云田

接吳 是若在 自利益甚 吐食不下句之下則是已吐食不下 四字 當在 **必胸下結鞕何之下其** ·而自 利 说

甚矣仲以後日若下之無所謂也

寒化之恐也皆以 大陰界梁 時度日孫寒邪 也其妙 狮 理 有問 剪派 中四 犯胃故吐食不下此太陰裏虛 中 遊遊 絡 於監塞邪傳於太陰故 溫之若腹滿監乾 飚 浦

大置痛始為太陰裏質邪 從熱化之證當以桂枝加

海下之矣若以太陰虛塞之滿痛而誤認為太陰質熱之

矣此太陰病

全篇之提

利引

後

凡

稱太陰病者皆指此

整

1-1-1

声也

集 除異於落之情 利浦 儿童 程 胸之化 湖南 應施日陽邪 加上 為实涯 科 食不下川滿為寒脹 利 所以安之前消 W 所災也役 随利或者今下 亦 有腹 陰邪 满 档 47 得 **添加** 陽 吐為寒格 Santa S 吐則滿去面食可下者今腹 從上陷 結 利 鞭 胸下之陰分異於陽 而時腹自痛則 無陽以化 त्रा 也陽邪亦 M. 稻 山山 氛 利為 الال 1 陰 爲 区人

諸府為質价 1 巡 Vita Thi 40 Tradition of the contract of t 統統 mj 利 桃 有時 大 别 州 腹自 也

滴

非

若積蓄而常痛

者若以

而月

即今後とすいいにの明べんとこう 下之其 訂正傷寒論註太晚奉篇 滿益 屯 必合 胸下皆為結 1 萸

傷寒四五日腹中痛若轉氣下趙少腹者此欲白利 傷家四五目邪八太陰之時也腹中痛若不轉氣下題者

也

計方有執日限中消轉氣下趨者裏處不能守而寒邪下 之候也此仲景示人不可以諸痛為質而安議下之意也 屬陽明也今腹中海轉氣下趨少腹者乃太陰欲作自利

11

711 張路口腹痛亦有屬火者其痛必白下而上攻若痛自土 下趨者定屬寒痛無疑矣

魏荔形日此重在預防下利

而非辨寒熱也玩者学欲字

丁のこまです かいいこう リーリー

自 在今後日三八公此風人於上八 注集 遊 屬 J.L. PJ 湯者屬 應旄 指 見其 自 除 者以其实 利 东口 也个自 日言 析 故太陰 水紋 利 指 辨 1711 天陰自 學邪者 13 泅 M -1 11 **並理中** 一陰同屬 在 自 利 利 将 利當 以其族 中 夏 क्ता No. 利 J 渴 冯 自 1 熱屬 滅 為 約 温 大 附于 知 有 寒公. 為太陰 子等 與龍 陰層 寒少 傷寒人們注人陰全備 也 有了 别 易 寒 法 雷之火 湯面買 陰 故 月
早 淵 也 告自 木 厥 士. 者也少陰屬腎水 也當溫之宏服 寒八 加美 陰 無涉 也 有 有 和 而 果 渴 不 從其 世 渦 H 部 除中 太 則 人常温之 陰獨無 溶 為要 四 进 渴 1/11

底 寒甚 則龍升故自利 而過厥陰中有雷火故有消渴

陽 照當雨收聲故發 轨 則 利 止見 厥而復 利

也

其藏本有寒也 形目自 利二字乃未經誤下誤行誤吐而成者故知

理中国方

夕 二

白术

甘草

研碎溫服之日三四夜二服腹中未熱益至三四 味禱篩蜜和為 · 托如雞子黃許大以沸湯數合和

) [[.

一升月二川

及

湯湯法

以

四

物

依兩數切用水八升煮取三升去溶

リングインシンはかいろう 东 腹 泅 腹 MIL 温 流 中漏 肺 服 谷水" 多者週用术 加口 得水 为大大 州 者去术加 上築者肾氣動 减 一升日三 者加人 此遠 注: 者 Miles The State of 粉 力印 加工 多足前 前成 水及前 學者 生薑 衣 附付 朋 被 1 T. 四 MIT 也, 主水 成 加克 林 VIVI 校 傷寒論品太陰全篇 下列 本 T. Day 規 四 四 湯 两月 加口 网 後 兩 华 华 桂 如食 四 177 頂飲熱 丘 粥 花

禁 解 也参 虚 得 薪 伐 都 腎雙溫 随 刨中 薪 账 五 तित 腎 水 旄 愁 藏六府皆受氣矣 失 故 騰 邓 会社 张草 陽氣 焰 則 氣 曰 名 加 陽之 延 被 加口 失守膻中 回 生 之以附 是以毅 氣故臍 理 所 T 蓝 中質以 以守中 到清 動 以 始 止 無 办 子 宗父 順 T 火彩 湿 1. 後宣之川六府無灘 於陰長氣於 州 則命 JIL. 動 也 站西丰以 失滋味五藏 坦之功千中焦之陽 溫氣 理中之旨 氣 加 門益 附 吐 得 多腹 而 而土 以消 殺精運 也若水 陽上 空 浦 凌奔諸證所 指去术 母溫矣白木 FFI 陰也下多者湯 輸 必 一般氣 華恭 假之以 原 寒五 也恭謂 之功 也 升)除 1 力以 नित 補 指罪 燃 由 猶 桂 41 女口 當

也是用木灰层

也揭然院水飲渦也加

术吏次化律生也

科 心 也 還 加乾蓝寒花 . 悸停水也加茯苓 用木燥濕也渴欲 也 導水 你 水飲湖也加术使飲化津生也 也腹中痛倍人参虚病 担実

遊賣地族本人参湯主之 傷寒本自寒下階復吐下之 寒格更遊吐下若食入口即吐

皆釋胃寒下利 更遊吐下可知寒下之下字皆是格字文義始相屬註家 格則吐道 中直無寒下之病 格者吐 不但支 造之病 我 亦無寒下之支死本條下文寒格 不屬且與本連之藥不合 名也朝食森吐牌 寒格也

川生をおけるといいのでいる。」 八郎吐村 熱格也本 訂正 自寒格謂其人本自有朝食暮 傷寒論註果食全篇

作多中与人が大力

寒格之病也今病傷寒點見可吐可下之器遂執成法復

行吐下是寒格更遊於 吐下也皆以理中湯溫其太陰

丁香降其寒逆可也若食入口即吐則非寒格乃熱格也

當用乾薑人參安門黃連黃本降胃火也

龙荒黄連黄本人参湯方

黄連

真岑

人参各三兩

高清便自調者急當救表救裏宜四遊湯救表应桂枝湯 傷寒醫下之續得下利清穀不止身疼痛者急當救裏後身疼 村 四欧以水六升煮取二升去滓分溫再服

仁事等看了分主人主要在人们是看出明明八丁之物用了自己一个人

和金をというのき回 とこ 註集 王三陽。 情傷寒情不分表果然然屋質前機下之解件下門以外 IF: 之陰寒極隘不得不急救其裏俟裏證稍定仍救 喻昌曰改襲必須先表後展始無倒行遊施之追惟在裏 再 上海寒口流法省悉放此 溴依 謂救聚後再 者实其其也雖行通身疼痛之表未除 緩急不可 - 4 - - 1 其表可也放展分四道湯溫 也 11/L 行救表 中文印度主文 證實照顧協熱利 記傷寒論註太陰全篇 也 須審其利之色何 便利自調仍身疼病 中勝 寒救 11 表多柱枝 和分次 如與勢

利清散不可攻表汗出必服滿 THE 詳上條不先被真面 發其表] 以明太陰少陰同病之證

利 臒 誤 也 攻其表即使汗山太陽表解而太陰寒凝必脹 展滿身體疾病者先溫其妻力攻其末溫裏左四 利清殺太陰寒邪已傳少陰即有身痛不可攻 满 表

政家宏柱枝湯

اللا 見總以溫裹為急故當先溫其裏後攻其表溫裏乞四 果無那 承上條互發其證以明先裏後表之治也下利腹脹 也身體疼痛者表寒邪也凡表裏寒邪之證 遊 11.2)

,.

攻表室桂枝湯

おおまりでは、新生物中などもとしている。 では、新生物中などもとしている。

力有執 後 高 曰果而表質惟其虚也放必先之惟以的也於

發汗後腹脹滿者 註成無已日此後脹滿與下後脹滿皆為實者言邪氣乘虚 提計草华夏人参湯主之消脹散 汗 後長己 月村生 列星 间腹 湖 在半又什么人多湯 者太陰裏虛之脹滿也故以厚 浦浦川 主 降進也

陰 裏而為質 不足 脚。 机 X 發汗後 通效運加 FIIJ 外已 寫 清湖 解 越 腹 عادل **月**長 湯 滿 和脾門而降 知此要質用 逝

方。 矣

即をとすらとなる 现起 月此 條乃行後氣 訂正傷張、強此大冷文章前 施腹脹滿其 雌. 作 脹滿而 無

常 马克 厚 仙多野 分 天 一 汗 下之宏 本了-厚 1-1 河分 朴 儲 生萬半夏甘草人多湯 除 張 五味以水一斗為双三升去滓溫 解腹满痛 则不 主病發汗後何 多 皮例 大承 所 馬旬 父 能原航河 日此言後江 以 氣 用人多炙什许等 **治悉下之公大承氣湯腹滿不減減** 湯 生 人参 THE 氣 Mi 信 應滿 丰 水降清魚 例 ナ 兩 -則 沙华 计温補藥無疑 先11 不升而脹滿作 其人脾氣素虚今脾 分气 半夏半升 世界 月七 土腹故腹 升日三 也 矣 滿 用段 氣 為 太 (in)

丁二比一十十十十十八人 大人 大人 川 生いい しん アイス ラー が 有人 は

印在於後ず二下。於監監 註集 程應 無疑 此 以集急先攻退後和 **苗**个夏廿草人參湯 喻昌日城 不妨者乃腹 不妨 順 詳 一一分不足殺其势 施曰下之 中上 滿不城城不足言之實滿也當下之室大承氣 再 1000 下 條 不足言四 · 必常以 派 時減 HIJ 發其義 腹 減盡為度 滿 訂正傷主人则正太陽全篇 表 證 诚 如 形容腹滿 也 也 也今發行後表不解腹 復如故之虛滿 以别其治也 故 北上 卽減 所 以縱 也 去一二分算不得減 如 有外 納見 發 也當温之厚 汗後表已 t 滿至十分即 那 未 角罕 而當 朴 腹 滅

太 不不 19% 滿 福 宏壁 **鹹**浮者可發汗空 大痛 食 平 理 则 不知 燕 口 已成胃實又 **爬因目之質** 太陰無 用军 到一个 HI 太陰尤 與胃相 问 非此湯 而質亦 柱 表裏也太陽候下太陰受邪適 下之法也沒在 無受下之處柱枝 枝 锡 之所能治故室太承氣湯 卽 因太陽之邪而痛 杂型 加大黃陽安能 則 各經已無可 矣 旣 有 無 也

浮 太陰 經病城 緩 潜 知太陽表 當浮 然 邪 太陰藏病鹹當沉緩今邪 狍 未全罷也故即 有吐 利 至太陰蘇 食腹

外 下利急先校直然的版公人名名 俟 外 解 己 再 調 其 闭 PJ 也 於 此 又 pJ 奸 論 中

時痛

不沉而

浮

便可以柱

枝

發汗先

解

下利急先救良者鹹必不洋矣

註集 而 不言者問 沥 力 除 太 不 陽 排 뉏底 有 /严 汗不必言也 無汗宏麻黃湯 用縣黃 رالا 邺 学 対する 湯 1111

柱 枝湯葢以三陰兼 表病 者俱 不當大發汙也

亦有用柱枝者

枝 陽 解散 知 脈尺 此言太陰宏 3]-麻黄 俱 浮今 者 (会)病 版者 帅派 学 也 则 還 會 於表可 發 病調有腹 外矣 也 柱枝 痛 故宏 利 也

夷之意思。

旬 大行文等は下記の問 程 應旄 此 太 陰中 可正傷寒論正大陰全衛 之 太陽 也 战性 裏病仍 從 陽

力不引邪入藏

湯主 木太陽病醫反下之囚 产品 本太陽中 之大實痛 者柱枝 風 病醫不以桂 1/11 加 人黃湯 腹 游 枝 時痛者屬太陰也柱 湯發之而反下之因 主之 枝 加芍藥 TII 邪

桂 枝加芍藥湯以 外 解太陽之表而內 調太陰之裏虚 也

入裏餘無他恐惟

腹

满時

痛

者此屬太陰裏處痛

也故

穷

陷

湯 以 大滿質病 外 角华 太陽之表 則屬太 陰 丽 內攻 熟 化 胃實病 太陰之裏實也 也故友 非 枝 加

註集 趙 寒之 嗣真日太陰腹滿 那有 下 後 内 陷 證 之 有三有 邪 不 可 不 次第傳經之邓有直入中 辨

輸出日本易肯之类下土後一年衛物ノニルノ東下面

黄 邪 也 腹 應 内 陽 除 かり 湖南 芍 陽 陷 旄 分 用 用字 1:1 id. 質 強 档 1.5 氣 柱 浙 游 誤 以 力与 裹 邪 本 枝 易 無 经一 從 調 以 於 15 初 方 为行 解 川沟 桂 太 和 太 分 陷 不 別し 别编 枝 陰 易 殺 太 增 2 祭 炭 倘 京丁正 非 陰 例 其. 法 ring 協寒論註太陰 藏 31-成 315 未 处 址 Hel 質 朔. 發 寒 腹 越 115 斯 升 其 滿 大 प्रा 病 峻 為 發 羽以 竹 邪 痛 也 時 柴 攻 前针 大 L AE. 但 於 仍 痛 调 陽 所可 111 F 部 大 用 湯 於 陰 2 周易 質人 陰 似 桂 杜 位. Tris 羽片 以 -黄 其 可 枝 枝 H 化 所 M 湯 美 游 急 部 湯 对 il 破 好。 升 11 级 小 书 從 設 赐 加工 急 以 太 7

村 gar of constitutions 校 被 The second secon 方令 柯琴口腹滿 柱 此 右六味以水七升煮取 加大黄锡 加川 主 炙二 啊 枝 特 111 使表裏兩邪各 以場方內一 樂湯 **爺雖屬之太陰** 太陰病 ブ 则 更加为 爲 生灌 腐 太陰陽明 黄 有 氣 質從太陽傅來則乘必们 切三两 __ __ 樂三兩隨前共六兩餘依桂枝揚法 大路 疑不 两 三升去洋溫服 俱 则 利 有 寒暄實去不 之器然位同而 故滿而時 大炎 校十 八兩 新陽 升上三服 淵 My 職異太 明主 泮 自 溫矣然 可 內陽

明的国际原际

H をが送りいいくい 則 胃 轉 版 This 除 11) 痛 膜 块 表 氣 136 沙河 1/15 起 滿 大 學 1 陽 虚 洲 非 Wij 質 想 盟 明州 木 VI 划 展 Lame 来 質 騎 × 19 陽 社 除為 解 N. Tr - 3 p 315 消 名言 人 The state of the s 1115 那里 娱 徐 也 淅 很效 襲 · 文主· IH 陽 湖 家 The state of the s 陽 貝引 没 雙 31s 1] 何 不 訂正傷寒論述太陰全篇 道 小 腹 被 例作-M が Wij 11 恒 湖 加 神师 夫 除 凶 政 特 村里 其诗 艾 1811 顺道 展 表 大 娱 湖南 1.3 揃 174 191 洲 人 浴 小幾 除 之时 This 1 ihi 1 1113 時 M 1111 浙 解 一人 被 安 14 沥 是 中 貨 15% 111 3 ... illi 河道 到! 1 Wi 1 [1] 心心 17. 比解 1)45 傷。 111 MA 利 加 Ti 劑 VA 13/ 11 11 - 40 湖前 511 人 加 兆 村 -19/1 11 King, 沙 PAS 113

除 計集 AN-為 建 程 喻 被 甸瓜 倫然 1. 人人 Sandaras . 1.18 时 To the 浙河 知 Account of the Parket 湯 目 車 镁道 帧系 目 此 11 10 对% 1-10 易易 1. IL 此 机 言 14: 1 推 段 發 地 前 禁 太陰 叮嘮 2 N. 11/2 明 被 彩 时 湖 質 也 也 知 13/2 H11: 自 跡 1/11 與 另为 湯 大 滅 痛 不 便 明了 車停 不引 恐 便 治之之法 統的 稿 レス 城 萨 設當行大 目氣 1/1 者 1. 利 才經 万. 不論 當 相 雖 易汤 小 人黃芍 腹 有 發 難 以 在 排 然必 颇 明 腹 陰 貊 峻 消 陽 在. 攻 續 息 明 影 不 自 岁。 儿 其 E 便 用 不 鹹 丰 易易 攻 镇 動

17

自 傷 脾 引をとす。こ 寒 利 血底 对 哲 Par 亦 I.F. 声径. 故 氣 號 薬 浮 亦 滅 日 1111 减 E F 利哉 能 3 -先 1711 7 -血版 い。大川 當 味 發黃 或 军 緩 英更 1 另另 手 酸 去 恶 後 HH til 寒 汝 足 断灰 大 治質 · · 毛 源 怕 渍 E 雖 弱引 EI 也 1-1 湖 不 能 與明 利 省 若 氣 傷 定 計 雖. 目 雖 繁 成 綏 有 並 杲 氣 在 腹 朝坦 不 证太哈金篇 充 新 水 竹 煩 故 峻 坊 是 陰 种 K 诚。 景以温 一減

方 恐傷太 要非 太 刖 利 陰常 太贞 目 氣 到色 为 能 陰 易为 餘 發 身黃 爽 制制 用料 行 到这 斯 那个 必 氣 险 自 岁 能 此 生 恐 141 便 氣 傷

和 註集 傷 也 轉 濕 到 寒 II! 故 姚 緩 外口 屬 酱款 血灰 陰 故 血瓜 陽 也 更 E 言 也 金 浮 净 明 浮 Thi 緩 今 べ 太 自 緩 们 弹 手。 郎 派 陰 緩 少 和 手 屬 被 陰 類 7 足 不 足 湖。 趣 独 厥 證 不 滌 熱 能 雌 陽 知 陰 衇 發真 太陰 暴 中 與 者 之 浮 熱 1000 厥 煩 風 緩 繫 派 手 也 逆 川里 T itij 當 若 利 在 所 手 足 太陽 素質 至七 小温 验 足 濕 以 日 身 自 1 為 則 今 餘 黄 泄 TIME. 邪 擊: 為 手 牌實 行 H 小 Thi 不自 在. 則 大 便 足 必 水 太 常 自 淵 便 陰 發 也 似 腐 利 故 鞭 太 太 也 郑 則 者 陽 陰 取 夏可

Tres

鹹

熱

相

势

必

發

黄

然

便

利

則

りていること 黄 程 積 虚 浮 雕 藏 雖 則 纵 寒之病 應 是為 老 之病城自 学級 热 炭 慧 手足 广心 矣 小 煩 炒 ラーケス 深家 他 下 FI 陰鬱或 太 利 自 べ、 J.31 ない 當逐 凉 陰 AM. 利 作厂 H 1113 也 不毕 似 -}-者 矢山 餘 7 沙全 不 其 13. **急**性 E TO 有 VIII. 緩 而 訂正傷寒論註太陰全篇 能 行 人 陰 陰得 湯 爱好 心心 川坪. 1]. 手 3/ 也若 自 但 足 氯 道 證 質陰道處 寶而 然 防河 Marie of the 温 陰 不 之脈 MT 以 欲 和 不 其 非 周 VI 為 辨 利 心 外公 發貨 谱 波 设 虚 琳斤 貝川 实之 自止 陰行 則 13/1 1711 t: リノ 血液 必 陽道芸 Mr けし 發黃 馬盟 易 114 奖 不 走濕 逆法治 沙山 至) l 不進 州 7. 專门 E Ħ. 人人 為 與可 Tui 陰 無 H 人

大 征為四 冷 ill. 註集 11 月之 1 羽; 程 也 號 极 爭 風 煩 陰 1/ 知 因暴發 見陽 | 疼之器 也效 11 四 日傷寒陰邪 胍 丹支 JE 利 明 有 城 1111 1 腐 浦 烟 也陰陽以斧 人们 之長 13/7 新徒 度後 私戏 煤 北 产品 省 雅 血底 也 也 利是 珍清 陰病是從太陽 夫 死 則 故 汝 自 Uto) 除病 脚缘之正 你了 耳 沉言夫以 利 版本為 宏. 允 利 陽鄉 用 His 四 能 欲 氣質故不受 滅 浮 遊 171 邪傳府故 微沉牆之太陰 火災 傷風 風 愈、 是 醇 正級 陽 來 邪 者 邓 脫 故 也 नित Thi 有 故 欲 邪 M 血反

即气态及可言 太陰 趨 音切 邪之解 切七 此 万 病皆自愈也 喻 痛 句揭 旺時故 欲 見於 解時從亥 の意思なる 育等 也 [Z] 被 必 邪 潘之中 **肢凡太陰病** 一於所 不 能 音府 至北 勝 更祭共飯 旺之時亥子丑乃太陰所旺之時 訂正 穢 E M 月於 自 鹹浮 廢 解 者多是太陰中 矣 之長而不短知元氣未 -私 也當

